

弓削商船高等専門学校	生産システム工学専攻	開講年度	令和03年度 (2021年度)
------------	------------	------	-----------------

学科到達目標

自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成
 幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
 機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的技術者の育成

到達目標項目

カテゴリ 番号 項目

- 専門 A1 自然科学および専門技術の基礎力
- 専門 A2 科学技術への応用力
- 教養 B1 海をとりまく自然・文化・歴史への興味・好奇心
- 教養 B2 多角的に思考・調査できる独創力
- 教養 C1 日本および世界の文化や社会への関心
- 教養 C2 国際的視野
- 教養 C3 高い倫理観
- 教養 D1 基礎的能力
- 教養 D2 教養
- 専門 E1 専門知識 (機械・情報系)
- 専門 E2 基礎的・実践的技術 (機械・情報系)
- 専門 E3 システム開発の能力

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分	
					専1年				専2年						
					前		後		前		後				
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
専門 必修	技術文献ゼミ	0001	学修単位	2	2		2							藤本 隆士, 高木 洋	
専門 必修	生産システム工学実験	0002	学修単位	2	6									長井 弘志, 冨目 幸一, 前田 弘文	
専門 選択	生産システム工学概論	0003	学修単位	1	1									大澤 茂治, 長井 弘志	
専門 選択	数値解析特論	0004	学修単位	2			2							政家 利彦	
専門 選択	エネルギー変換学	0005	学修単位	2	2									Davaa Ganbat	
専門 選択	離散数学	0006	学修単位	2	2									柴田 孝祐	
専門 必修	数理工学	0007	学修単位	2			2							柴田 孝祐	
専門 選択	計算機制御システム	0008	学修単位	2			2							長井 弘志	
専門 選択	ロボット工学特論	0009	学修単位	2			2							前田 弘文	
専門 必修	特別研究 1	0010	履修単位	2	6									Davaa Ganbat, 大澤 茂治, 藤本 隆士	
専門 必修	特別研究 2	0011	履修単位	2			6							Davaa Ganbat, 大澤 茂治, 藤本 隆士	
専門 必修	文書表現論	0012	学修単位	2	2									要 弥由美	
専門 必修	技術英語 2	0013	学修単位	2	2									野口 隆	
専門 必修	技術英語 1	0014	学修単位	2			2							野口 隆	
専門 必修	情報処理応用論	0015	学修単位	2	2									峯脇 さやか	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術文献ゼミ
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	適宜指示する				
担当教員	藤本 隆土,高木 洋				
目的・到達目標					
各分野の先端的やトピックス的な研究に関する論文や文献を精読し理解を深めるとともに、文献調査能力、論文講読能力およびプレゼンテーション能力を養う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
日本語の技術文章を要約できるか	要約できる		不十分だが要約できる		要約できない
口頭による発表や説明ができるか	発表や説明ができる		不十分だが発表や説明ができる		ほとんど説明できない
英語の技術文章を要約できるか	要約できる		不十分だが要約できる		直訳ができない
学科の到達目標項目との関係					
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C2 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	各分野の先端的やトピックス的な研究に関する論文や文献を精読し理解を深めるとともに、文献調査能力、論文講読能力およびプレゼンテーション能力を養う。				
授業の進め方と授業内容・方法	論文は、指導教員と相談して選定する。内容および関連事項について、輪講形式で、全員の前で発表し質疑に回答する。専門分野によっては、発表時に特別研究指導教員が出席することもある。				
注意点	論文・文献は年間4編以上とし、最低1編は英文であるものとする。学修単位であるため、1単位につき授業時間30時間、自学自修時間15時間を必要とする。ゼミへの取組と論文講読能力、作業遂行能力、提出物および口頭発表の完成度に基づき総合的に評価する。特定のテーマについてゼミナール形式または輪講形式で講義を受ける。原書講読、関連論文の講読を行う。また、定期的に学習内容についての発表を行う。事前に与えられた文献を読みまめたり、背景の技術について調査するなどの自学自習を行うこと。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスとテーマの選定について	講義の進め方、方針を理解し、文献要約の基本を知る	
		2週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		3週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		4週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		5週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		6週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		7週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		8週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
	2ndQ	9週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		10週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		11週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		12週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		13週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		14週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		15週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		2週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		3週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		4週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		5週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		6週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		7週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		8週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
	4thQ	9週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		10週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		11週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		12週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		13週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	
		14週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる	

		15週	工学に関する文献の要約と解説	技術文献の要約ができる
		16週		

評価割合

	提出物	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	生産システム工学実験		
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	前期:6			
教科書/教材	資料を配布する。						
担当教員	長井 弘志, 葛目 幸一, 前田 弘文						
目的・到達目標							
専門分野に関連する基礎および応用にかかわるテーマを中心に、授業内容の理解を深め、創造力を育成するために、解析、シミュレーション等を含む実験を行い、実践的技術者の資質を養うことを目的とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
ハードウェア記述言語を用いてデジタルシステムの設計と動作シミュレーションができる	Verilog HDL言語を用いて、デジタルシステムを実現することができる		Verilog HDLを用いて、基礎的なデジタル回路の設計と検証ができる。		Verilog HDLを用いてデジタル回路の設計・検証ができない。		
PWM制御の説明ができ、マイコンを用いたPWM制御回路の設計・製作、プログラミングができる。	PWM制御の説明と回路の開発ができる。		PWM制御の説明と回路の製作ができる。		PWM制御の説明と回路の製作ができない。		
ロボット工学について説明できる	ロボット工学について、具体的な例を挙げて説明できる。		ロボット工学について、概要を説明できる。		ロボット工学について、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	専門分野に関連する基礎および応用にかかわるテーマを中心に、授業内容の理解を深め、創造力を育成するために、解析、シミュレーション等を含む実験を行い、実践的技術者の資質を養う。						
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実験課題ごとに実験室、実習工場、学内外の共同利用施設等で実験を行う。 ・実験の実施には上記の指導教員の他に複数の補助者がつくことがあり、実験スタッフとのコミュニケーションが必要となる。 						
注意点	・各実験課題について、レポートを期限内に提出しない者、または発表を行わない者には、単位を与えない。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	オシロスコープを用いた波形解析とマイコンを用いたPWM制御 (長井) 実験計画、オシロスコープの操作、マイコンを用いたPWM制御の理解、回路の設計・製作、プログラミング			実験計画、オシロスコープの操作、マイコンを用いたPWM制御の理解、回路の設計・製作、プログラミングなどができる。	
		3週	オシロスコープを用いた波形解析とマイコンを用いたPWM制御 (長井)				
		4週	オシロスコープを用いた波形解析とマイコンを用いたPWM制御 (長井)				
		5週	オシロスコープを用いた波形解析とマイコンを用いたPWM制御 (長井)				
		6週	順運動学 (前田)			ロボットをアームを紙で作成し、そのロボットアームを用いて、分かりやすく理論 (順運動学・逆運動学) を説明できる。	
		7週	逆運動学 (前田)				
		8週	実験による確認 (前田)				
	2ndQ	9週	実験による確認 (前田)				
		10週	ハードウェア記述言語によるデジタルシステムの設計 (葛目)			Intel QuartusPrime (FPGA開発ソフト) を用いて、Verilogにより論理回路の記述と動作シミュレーションができる。	
		11週	ハードウェア記述言語によるデジタルシステムの設計 (葛目)				
		12週	ハードウェア記述言語によるデジタルシステムの設計 (葛目)				
		13週	ハードウェア記述言語によるデジタルシステムの設計 (葛目)				
		14週	まとめ				
		15週	まとめ				
		16週					
評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50

専門的能力	20	20	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	10	0	0	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	生産システム工学概論
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	配布テキストなど。				
担当教員	大澤 茂治,長井 弘志				
目的・到達目標					
本講義は、機械系出身者が情報系科目を履修する、または情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で開設される。したがって、異なる分野の学習がスムーズに行えるよう柱となる理論や技術の概要を習得することが目標である。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
【機械系クラス】 設計製図の基礎を理解でき、正しく図面を読むこと、作成することができる。	正しく図面を読むこと、作成することができる。	正しく図面を読むことができる。	正しく図面を読むこと、作成することができない。		
【情報系クラス】 マナーに則したWEBメールが出せる。	マナーに則したWEBメールが出せる。	WEBメールの基本操作ができる。	WEBメールの基本操作ができない。		
【情報系クラス】 JAVAでプログラミングが行え、各種問題を解決することができる。	JAVAで繰り返しデータ処理が書ける。	JAVAで入出力処理が書ける。	JAVAで入出力処理が書けない。		
学科の到達目標項目との関係					
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3					
教育方法等					
概要	<p>【機械系クラス】 情報系出身者が機械系科目を履修するにあたり、問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で、理論や技術の概要を習得する。</p> <p>【情報系クラス】 機械系出身者が情報系科目を履修するにあたり、問題となる専門的予備知識の不足を補う目的で、理論や技術の概要を習得する。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<p>【機械系クラス】 ・座学の講義を基本とする。</p> <p>【情報系クラス】 ・座学の講義を基本とし、PCを用いた演習も行う。</p>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本教科の英語表記は、Introduction to Manufacturing Engineeringである。 ・15時間の講義と30時間の自学自習を必要とするため、合計で30時間に相当するレポート課題の提出を求める。 ・修得にはレポートの提出を必須とする。 				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	【機械系クラス (大澤)】 ※情報系出身者が受講 ガイダンス 1週		
	2週	製作図 2週 線の用法 3週	図面の概要を理解できる。 線の種類および用途を理解できる。		
	3週	寸法記号 4週～5週 断面図 6週	寸法記入法を理解できる。 断面の図示方法を理解できる。		
	4週	公差・公差記号 7週 表面性状 8週	公差・公差記号を理解できる。 表面性状、記号を理解できる。		
	5週	歯車 9週～10週 ねじ・ボルト・ナット 11週	歯車の種類、規格、描き方を理解できる。 ねじ・ボルト・ナットの規格を理解できる。		
	6週	図面製作 12週～15週	図面を作成することができる。		
	7週				
	8週	【情報系クラス (長井)】 ※機械系出身者が受講 ガイダンス 1週			
	2ndQ	9週	WEBメールの概要 (メールの基本操作、マナー、圧縮ファイルの取扱など。) 2週	マナーに則したWEBメールが出せる。	
	10週	プログラミングの概要 (PAD図、変数、演算子、分岐処理、繰り返し処理など。) 4週	PAD図が書ける。		
	11週	JAVAによるプログラミング基礎演習 (JAVAの概要、オブジェクト指向の概要、JAVAを用いたデータの取得および解析。) 8週	JAVAによるプログラミングができる。プログラムによるデータ処理の基本が理解できる。		
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	0	0	80
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	数値解析特論			
科目基礎情報								
科目番号	0004		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する							
担当教員	政家 利彦							
目的・到達目標								
数値解析は機械設計における有限要素法以外にも多岐に渡る分野で必要とされるようになってきている。これを踏まえ、基礎的な微積分の復習から数値的な微積分を行う。また数値積分・数値微分を通じて基礎的な数値の処理方法について理解をする。最後に、有限要素法に関する概略の紹介を行う。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
数値解析の基礎はである微分と積分について簡単な計算が行える。	数値微分と積分の問題を解くことができる。		数値解析の基礎が微分・積分であると理解できる。		数値解析の基礎が微分・積分であると理解できない。			
テイラー展開とマクローリン展開を理解し、その基礎的性質を理解することができる。	テイラー展開とマクローリン展開を理解し、その基礎的性質を理解することができる。		テイラー展開とマクローリン展開を理解できる。		テイラー展開とマクローリン展開を理解できない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	基礎的な微積分の復習から数値的な微積分を行う。また数値積分・数値微分を通じて基礎的な数値の処理方法について解説する。加えて、生産システム工学実験の内容を踏まえてその解析方法について述べる。							
授業の進め方と授業内容・方法	座学を中心に、適宜実技を行う。							
注意点	本科における数学の復習を求める。 1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			数値解析で教える内容を理解できる。		
		2週	微分・積分と数値モデル			数値モデルを理解できる。		
		3週	数値微分			数値微分を理解できる。		
		4週	数値積分			数値積分を理解できる。		
		5週	連立方程式の解き方			連立方程式を数値的に解く手法を理解できる。		
		6週	最小二乗法			誤差と最小二乗法を理解できる。		
		7週	テイラー展開の実技			簡単な関数をテイラー展開したグラフを作成できる。		
	8週	小テスト			ここまでの内容について小テストを解くことができる。			
	4thQ	9週	区分多項式による近似			区分多項式による近似を理解できる。		
		10週	スプライン曲線			スプライン曲線について理解できる。		
		11週	ベジエ曲線			ベジエ曲線について理解できる。		
		12週	スプライン曲線とベジエ曲線の実技			簡単なスプライン曲線とベジエ曲線のグラフを作成できる。		
		13週	モンテカルロ法			確率の扱い方を理解できる。		
		14週	剛性方程式			剛性方程式を理解できる。		
		15週	変位関数			変位関数を理解できる。		
16週		アイソパラメトリック要素			アイソパラメトリック要素を理解できる。			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100	
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30	
専門的能力	20	0	0	0	30	0	50	
分野横断的能力	0	0	0	0	20	0	20	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	エネルギー変換学			
科目基礎情報								
科目番号	0005		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	新教科書シリーズ エネルギー工学入門: 梶川 武信 (裳華房)							
担当教員	Davaa Ganbat							
目的・到達目標								
エネルギー変換とは、ある形態のエネルギーを別の形態のエネルギーに変えることである。本講義では、さまざまなエネルギー変換技術の概要を学ぶとともに、エネルギー資源、エネルギー問題 (新エネルギー、グリーンエネルギー、地球温暖化) について学習し、エネルギー資源の有効利用や環境保全に対する技術ベースを習得することを目標とする。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
エネルギー変換の方法を理解できる。	エネルギー変換方法を理解できる。		エネルギー変換方法を理解できる。		エネルギー変換方法を理解できない。			
エネルギー変換マップ、エネルギーシステムについて説明できる。	エネルギーの各種物理量の定義と単位を説明し、利用できる。		エネルギーの各種物理量の定義と単位を説明し、理解できる。		エネルギーの各種物理量の定義と単位を説明できない。			
エネルギー資源、エネルギーを取り巻く環境問題を説明できる。	エネルギー資源、エネルギーを取り巻く環境問題を説明し、理解できる。		エネルギー資源、エネルギーを取り巻く環境問題を説明できる。		エネルギー資源、エネルギーを取り巻く環境問題を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	エネルギー、エネルギー資源、エネルギーシステム、エネルギー変換に関する基礎知識を理解する。							
授業の進め方と授業内容・方法	座学の講義を基本とする。							
注意点	1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。							
実務経験のある教員による授業科目								
この科目は発電所で熱や流体を用いた発電システムの業務を担当していた教員が、その経験を活かし、エネルギー変換に関する基本的な考え方や解析などについて講義形式で授業を行う。								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	エネルギーに関する概念 (エネルギーとパワー)			エネルギーとパワーについて理解できる。		
		2週	エネルギーシステム			エネルギーシステムについて理解できる。		
		3週	エネルギー資源			エネルギー資源について知識もつ。		
		4週	エネルギー資源 (続き)					
		5週	エネルギーを取り巻く地球環境問題			地球環境問題について互いに話し、理解できる。		
		6週	エネルギーを取り巻く地球環境問題 (続き)					
		7週	力学エネルギーとその変換			力学エネルギーとその変換方法を理解し、説明できる。力学エネルギーの物理量の定義と単位を説明し、利用できる。		
	8週	揚水式発電所			揚水式発電所を理解し、説明できる。			
	2ndQ	9週	風力発電			風力発電を理解し、説明できる。風力エネルギーの物理量の定義と単位を説明し、利用できる。		
		10週	海洋エネルギー、海洋エネルギー変換システム			海洋エネルギーとその変換システムを理解し、説明できる。		
		11週	波力エネルギーの変換			波力エネルギーとその変換システムを理解し、説明できる。		
		12週	熱エネルギーの変換			熱エネルギーとその変換方法を理解し、説明できる。熱エネルギーの物理量の定義と単位を説明し、利用できる。		
		13週	熱エネルギーの変換 (続き)					
		14週	火力発電			火力発電所を理解し、説明できる。		
		15週	海洋温度差発電			海洋温度差発電を理解し、説明できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計	
総合評価割合	0	70	0	0	30	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	70	0	0	30	0	100	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	離散数学		
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	工学のための離散数学(数理工学社)						
担当教員	柴田 孝祐						
目的・到達目標							
離散数学はコンピュータサイエンスの基礎をなす。本講義では、数え上げや集合と写像の扱いやいくつかの証明方法について学んだ後、グラフ理論、初等整数論等からいくつかの話題を取り上げ、離散数学の概念や離散的な思考方法の習得を目標とする。この講義では、試験及びレポートをもって総合的に評価する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
数え上げ方の理論を理解し、対象の個数を調べることができる。		様々な原理を活用し、個数を求められる。	順列、組み合わせを応用して、個数を求められる。	順列、組み合わせを用いて、個数を求められない。			
集合と写像を用いた論理表現の基礎を理解し、命題の証明ができる。		命題に応じた集合や写像を構成し、証明できる。	与えられた集合や写像を用いて証明ができる。	集合や写像を扱うことができない。			
グラフ理論、初等整数論を活用して、問題を表現、解決することができる。		現実の問題を、グラフや初等整数論を用いて解釈できる。	基本的な問題をグラフや初等整数論を用いて解ける。	グラフや初等整数論を用いて、問題を表現できない。			
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法	講義では「具体的例を数学的にきちんと定式化するとどうなるのか」という点を重視して解説し、離散数学を活用する方法を具体的に示し、受講者の理解を助ける。単元の終わりには演習およびレポートを課し、理解の深化を図る。						
注意点	1単位当たり、30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	数え上げ1: 順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを説明できる。			
		2週	数え上げ2: 数え上げの応用	重複順列などを計算できる。			
		3週	数え上げ3: 数え上げの原理	包除、鳩の巣原理を利用できる。			
		4週	集合と写像1: 集合の基本性質	集合の定義を述べることができ、記法を扱える。			
		5週	集合と写像2: 集合、写像の性質	全射、単射、全単射を説明できる。			
		6週	集合と写像3: 写像の関係性	同値類、商集合を構成できる。			
		7週	背理法と帰納法1: 背理法	背理法で命題を証明できる。			
		8週	背理法と帰納法2: 数学的帰納法	数学的帰納法で命題を証明できる。			
	2ndQ	9週	論理1: 真理値表	真理値表を用いて証明できる。			
		10週	論理2: 論理式	論理記号を用いて、論理式の意味を説明できる。			
		11週	グラフ理論1: グラフ理論の用語	グラフ理論の用語を説明できる。			
		12週	グラフ理論2: オイラー閉路	オイラー閉路を判別できる。			
		13週	グラフ理論3: 木	木の定義とその性質を説明できる。			
		14週	代数: 初等整数論	初等整数論の基礎を利用できる。			
		15週	代数: 群論	群の定義を述べることができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	15	0	0	0	0	55
専門的能力	20	15	0	0	0	0	35
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	数理工学		
科目基礎情報							
科目番号	0007		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	柴田 孝祐						
目的・到達目標							
この講義では、現実社会に起きうる現象を数式で実現し、与えられた問題の最適戦略を得る手法を学ぶ。具体的には、行列等を駆使して、与えられた目的関数を最大または最小にするために必要な条件を把握することと、実際の最適解を得る解法を習得することを目的とする。 この講義は、試験およびレポートによって評価する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
いくつかの線形計画的な戦略を得ることができる	目的関数を設定し、実行可能基底を与えることができる。	条件から立式することができ、実行可能であるか判断できる。	条件から立式することができない。				
人工基底を用いて、線形計画的な戦略を得ることができる。	人工基底を用いて、線形計画的な問題に帰着でき、それを解くことができる。	人工基底を用いて、線形計画的な問題に帰着できる。	人工基底を用いることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法	講義では、「具体的な現象を数学的に定式化するとどうなるのか」という点を重視し解説し、行列等を活用する方法を具体的に示し、受講者の理解を助ける。レポートや演習を実施し、理解の深化を図る。						
注意点	1単位あたり30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	数理工学で学ぶ内容を把握できる。			
		2週	連立一次方程式とガウスの消去法	ガウスの消去法を用いて連立方程式を解くことができる。			
		3週	行列の基本変形と基本行列	ガウスの消去法と基本変形の間係を細付けられることができ、実際に計算を行うことができる。			
		4週	線形計画問題	制約条件から立式し、目的関数を設定できる。			
		5週	制約条件と目的関数	定数係数非同次線形微分方程式が解ける。			
		6週	実行可能基底解	実行可能基底解を求められる。			
		7週	凸集合と凸結合	凸集合と凸結合の定義がわかる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	シンプレックス法 (1)	より良い実行可能基底解を得られる。			
		10週	シンプレックス法 (2)	最適解の同値条件を述べられる。			
		11週	シンプレックス法 (3)	最適解を求めることができる。			
		12週	双対問題 (1)	主問題から双対問題をかける。			
		13週	双対問題 (2)	双対問題を解いて、主問題の解を得られる。			
		14週	ゲーム理論	ゲーム理論の概要を述べられる。			
		15週	二人零和行列ゲーム	二人零和行列ゲームが解ける。			
		16週					
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	20	0	0	0	0	60
専門的能力	20	5	0	0	0	0	25
分野横断的能力	10	5	0	0	0	0	15

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	計算機制御システム		
科目基礎情報							
科目番号	0008		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	資料を配布する。その他メーカーの技術資料を、HPなどから随時参照する。						
担当教員	長井 弘志						
目的・到達目標							
デジタル回路の基本素子からPICやArduinoといったマイコンのハードウェアとソフトウェアの設計・製作、マイコンとPCとの通信について講義と演習を通して学び、その知識を得ることを目的とする。さらに、自ら物理量計測システムを考案し、回路の設計・製作、プログラミング、マニュアルの作成までを一貫して行える、総合的な開発能力を身に付けることも目的とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
デジタル回路の基本素子についてAND素子を始めこれらの素子について理解する。	基本素子の組み合わせ回路を説明できる。		基本素子を用いた基本的な回路を説明できる。		基本素子についてその違いを説明できない。		
マイコンの基本的な回路を学び、プログラミングについて理解する。	各モジュールを使うプログラムを作成できる。		GPIOピンを使うプログラムを作成できる。		GPIOピンを使うプログラムを作成できない。		
センサを用いた物理量計測システムの回路の設計・製作、プログラミング、マニュアルの作成ができる。	回路の開発とマニュアルの作成ができる。		回路の製作とマニュアルの作成ができる。		回路の製作とマニュアルの作成ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	本講義では、機械工学、電子電気工学、情報工学の専門知識を複合的に活用し、マイコンとPCを使用して、考案、設計・生産、保守・運用までを見据えた総合的な開発能力を身に付ける。						
授業の進め方と授業内容・方法	・座学の講義を基本とし、マイコンとPCを用いた演習も行う。						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本教科の英語表記は、Computer Control Systemである。 ・1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。 ・マイコンの開発環境はフリーソフトを使用し、マイコンや電子部品については貸し出しも行うが、自学自習ではPC環境を持つことが望ましい。 						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	デジタル回路の基本素子	AND素子を始めとする基本素子を理解できる。			
		3週	デジタル回路の基本素子				
		4週	デジタル回路の組み合わせ回路	組み合わせ回路を理解できる。			
		5週	デジタル回路の組み合わせ回路				
		6週	マイコンの歴史、開発環境、GPIO、TIMER、ADC、PWM、UART	マイコンの各モジュールの使い方を理解できる。			
		7週	マイコンの歴史、開発環境、GPIO、TIMER、ADC、PWM、UART				
		8週	マイコンの歴史、開発環境、GPIO、TIMER、ADC、PWM、UART				
	4thQ	9週	マイコンの歴史、開発環境、GPIO、TIMER、ADC、PWM、UART				
		10週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築	計画の発案、センサの選定、回路の設計・製作、プログラミング、マニュアルの作成などができる。			
		11週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築				
		12週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築				
		13週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築				
		14週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築				
		15週	マイコン・センサ・PCを用いた物理量計測・解析システムの構築				
		16週					
評価割合							
	レポート	成果物	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100

基礎的能力	10	10	0	0	0	0	20
專門的能力	30	20	0	0	0	0	50
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	ロボット工学特論	
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	株式会社朝倉書店 学生のための機械工学シリーズ6 ロボット工学 則次俊郎 五百井清 西本登澄 小西克信 谷口隆雄					
担当教員	前田 弘文					
目的・到達目標						
ロボット工学は幅広い学問を必要とし、従来の機械工学や電気工学などの単一の学問分野だけで対応することが困難であることを理解する。また、ロボットの機構や運動を記述するための力学について、線形代数学を用いて理解を深める。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
数学の基礎知識を有し、ロボティクスに適用することができる。	回転行列・ヤコビ行列の式を利用することができる。	回転行列・ヤコビ行列の式を展開することができる。	回転行列・ヤコビ行列の式を展開できない。			
ロボティクスに必要なロボットアームの運動方程式を導出することができる。	静力学・ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出できる。	位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出できる。	ロボットアームに関する式を導出できない。			
学科の到達目標項目との関係						
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> 数学の基礎知識を用いて、ロボティクスにおける回転行列やヤコビ行列の展開について学ぶ。 ロボティクスに必要なロボットアームの運動方程式について学ぶ。 					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 座学の講義を中心とする。 定期試験は行わず、レポートによって「知識の基本的な理解」と「思考・推論・創造への適応力」を評価する。 輪講によって「プレゼンテーション力」を評価する。 					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。 					
実務経験のある教員による授業科目						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ロボットとは	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		2週	数学的準備：ベクトルと行列	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		3週	数学的準備：座標変換と回転行列	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		4週	数学的準備：変数変換とヤコビ行列	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		5週	ロボットアームの運動学：位置と姿勢の運動学	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		6週	ロボットアームの運動学：位置と姿勢の運動学	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		7週	ロボットアームの運動学：速度、加速度の運動学	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
		8週	ロボットアームの運動学：速度、加速度の運動学	ロボティクスに必要な基本的数学知識を有し、ロボットアームの位置・姿勢・速度・加速度に関する運動学を導出することができる。		
	4thQ	9週	ロボットアームの力学：仮想仕事の原理と静力学	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。		
		10週	ロボットアームの力学：仮想仕事の原理と静力学	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。		
		11週	ロボットアームの力学：ニュートンとオイラーの運動方程式	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。		
		12週	ロボットアームの力学：ニュートンとオイラーの運動方程式	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。		

		13週	ロボットアームの力学：ラグランジュの運動方程式	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。
		14週	ロボットアームの力学：ラグランジュの運動方程式	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。
		15週	ロボットアームの力学：動力学方程式の性質と利用	ロボットアームの力学において、仮想仕事の原理や静力学はもちろんのこと、ニュートン・オイラー・ラグランジュに関する運動方程式を導出することができる。
		16週		

評価割合

	レポート	口頭発表	合計
総合評価割合	50	50	100
知識の基本的な理解	30	0	30
思考・推論・創造への適応力	20	0	20
プレゼンテーション力	0	50	50

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別研究 1			
科目基礎情報								
科目番号	0010		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1				
開設期	前期		週時間数	前期:6				
教科書/教材	各教員の指示による。							
担当教員	Davaa Ganbat,大澤 茂治,藤本 隆士							
目的・到達目標								
本科における学習、及び専攻科で得た知識を基礎として、より高いレベルの専門分野の研究を行う。学術講演会（学外発表）・学内発表会などを経験することにより、プレゼンテーション能力を養う。また、論文作成により、専門的な問題に対して、適切に対応できる力を養う。特別研究への取組姿勢や研究の完成度に基づき、総合的に評価する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1 専門分野の理論習得、周辺分野の知識習得、仕様の策定	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目2 実験やシミュレーションによるデータ収集、仕様に基づくものづくり	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目3 データの解析と考察、第三者の評価に基づく改良	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目4 学術論文形式での記録、プレゼンテーションによる説明	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	研究を指導する教員の下で研究活動を行い、研究課題に対するアプローチの方法や実験結果に対する分析・解析法などを学ぶ。また、問題解決の意識・能力を高めるように指導する。							
授業の進め方と授業内容・方法	各指導教員において適切に研究テーマの選定（特例認定を受けている研究テーマ）を行い、研究活動に取り組む。また、発表会・アブストラクトにおいて指導教員と審査教員によって評価され、総合評価で60%以上の評価で達成とする。							
注意点	研究活動の遂行により、学外の学術講演会で発表できる研究成果を得ることが望ましく、また、発表することを期待する。研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	適切な研究テーマ（特例認定研究のテーマ）を選定し、研究を進める			研究の進捗・進展に合わせた「目標設定」、「目標到達」を考える		
		2週	以降、同じように進める			以降、同じように進める		
		3週						
		4週						
		5週						
		6週						
		7週						
	8週							
	2ndQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週						
		13週						
		14週						
		15週						
16週								
評価割合								
	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	30	30	0	10	100	
基礎的能力	0	5	10	10	0	0	25	
専門的能力	0	15	10	15	0	0	40	
分野横断的能力	0	5	0	0	0	0	5	
総合的学習経験と創造的思考力	0	5	10	5	0	0	20	

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	10	10
-----------------	---	---	---	---	---	----	----

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別研究 2			
科目基礎情報								
科目番号	0011		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	後期:6				
教科書/教材	各教員の指示による。							
担当教員	Davaa Ganbat,大澤 茂治,藤本 隆士							
目的・到達目標								
本科における学習、及び専攻科で得た知識を基礎として、より高いレベルの専門分野の研究を行う。学術講演会（学外発表）・学内発表会などを経験することにより、プレゼンテーション能力を養う。また、論文作成により、専門的な問題に対して、適切に対応できる力を養う。特別研究への取組姿勢や研究の完成度に基づき、総合的に評価する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1 専門分野の理論習得、周辺分野の知識習得、仕様の策定	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目2 実験やシミュレーションによるデータ収集、仕様に基づくものづくり	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目3 データの解析と考察、第三者の評価に基づく改良	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目4 学術論文形式での記録、プレゼンテーションによる説明	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	研究を指導する教員の下で研究活動を行い、研究課題に対するアプローチの方法や実験結果に対する分析・解析法などを学ぶ。また、問題解決の意識・能力を高めるように指導する。							
授業の進め方と授業内容・方法	各指導教員において適切に研究テーマの選定（特例認定を受けている研究テーマ）を行い、研究活動に取り組む。また、発表会・アブストラクトにおいて指導教員と審査教員によって評価され、総合評価で60%以上の評価で達成とする。							
注意点	研究活動の遂行により、学外の学術講演会で発表できる研究成果を得ることが望ましく、また、発表することを期待する。研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	適切な研究テーマ（特例認定研究のテーマ）を選定し、研究を進める			研究の進捗・進展に合わせた「目標設定」、「目標到達」を考える		
		2週	以降、同じように進める			以降、同じように進める		
		3週						
		4週						
		5週						
		6週						
		7週						
	8週							
	4thQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週						
		13週						
		14週						
		15週						
16週								
評価割合								
	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	30	30	0	10	100	
基礎的能力	0	5	10	10	0	0	25	
専門的能力	0	15	10	15	0	0	40	
分野横断的能力	0	5	0	0	0	0	5	
総合的学習経験と創造的思考力	0	5	10	5	0	0	20	

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	10	10
-----------------	---	---	---	---	---	----	----

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	文書表現論
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『留学生と日本人学生のためのレポート・論文ハンドブック』二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子 東京大学出版 他に適宜プリントを配布する。				
担当教員	要 弥由美				
目的・到達目標					
発表されている論文や要旨を読み、レポート・論文というジャンルの文体、形式を理解したうえで、実際に形式の整ったレポートを書いてみる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	ある程度、収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できない。		
論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	ある程度、報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E2					
教育方法等					
概要	実際に修了論文を書くために役立ててほしいので、各自が書いた卒論やレポートを利用したり、その時点で課されている他科目のレポートを取り上げたりしていきたい。				
授業の進め方と授業内容・方法	論文読解や仮想のレポート課題の部分を書くことで、形式と内容の整合性を学ぶ。最終的には、5年生時に書いた卒業論文のフォームと内容の整合性を確認し、論文としての完成度を上げる。あるいは、次レベルの論文にレベルアップしたものを完成させる。				
注意点	1回目の授業に、本科5年生時に書いた卒業論文のコピーを提出すること。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス 論文速読①		
		2週	論文速読②		
		3週	論文速読③ 論文ブックレポート①口頭発表資料の作り方		
		4週	論文速読④ 論文ブックレポート②口頭発表		
		5週	論文速読⑤ 論文ブックレポート③口頭発表		
		6週	論文速読⑥ 論文ブックレポート④口頭発表		
		7週	論文速読⑦ 論文ブックレポート⑤口頭発表		
	8週	中間試験またはレポート提出			
	2ndQ	9週	卒論修正①		
		10週	卒論修正②		
		11週	卒論修正③		
		12週	卒論修正④		
		13週	卒論修正⑤		
		14週	卒論修正⑥		
		15週	卒論修正⑦		
16週		期末試験またはレポート提出			
評価割合					
		試験またはレポート	発表および課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術英語 2
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『Essential Genres in SciTech English』 Judy Noguchi, Masako Terui (金星堂)				
担当教員	野口 隆				
目的・到達目標					
技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、専門分野に関連する論文や、英文マニュアル、ホームページなどを読みこなし、それを元に自分から発信していく力をつける。また、学習した語彙・表現を用いてプレゼンテーション能力の向上をめざす。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 まとまった長さの説明文を読み、概要を把握できる。	毎分100語程度の速度で読み、概要を把握できる。	毎分60語程度の速度で読み、内容についての質問にyes, no で答えられる。	文章の概要を全く理解できない。		
評価項目2 前もって準備をすれば毎分100語程度の速度で約2分間の口頭説明ができる。	目標の速度で正確に約2分間の口頭説明ができる。	目標の速度である程度正確に約2分間の口頭説明ができる。	約2分間の口頭説明ができない。		
評価項目3 毎分100語程度の速度の英語で口頭でやり取りや質問・応答ができる。	目標の速度で口頭で英語のやり取りができる。	相手の協力があれば目標の速度で英語のやり取りができる。	口頭で英語のやり取りができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教養 C1 教養 C2 教養 D1 専門 E3					
教育方法等					
概要	技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、専門分野に関連する論文や、英文マニュアル、ホームページなどを読みこなし、それを元に自分から発信していく力をつける。また、学習した語彙・表現を用いてプレゼンテーション能力の向上をめざす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業前に教科書の内容は読んでいることを前提に授業を行う。 オーラル・イントロダクションを兼ねて内容を理解しているかどうかの確認のために英語による Q&A を行う。 教科書の内容についてグループ・ディスカッションを行い、その内容をまとめて発表する。 また各自の研究分野を一般向けに説明するプレゼンテーションを課す。				
注意点	辞書は必ず持参すること。 1 単位あたり 30 時間の自学自習を必要とする。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス/Unit 1: Safety Rules	本講義の目的、教授法、評価方法が理解できる。内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		2週	Unit 2: Recipe	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		3週	Unit 3: Product Specification	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		4週	Unit 4: Instruction Manual	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		5週	Unit 5: Laboratory Manual 1: Background	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		6週	Unit 6: Laboratory Manual 2: Procedures	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		7週	Unit 7: Q&A: Facts	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		8週	Unit 8: Science Feature Article	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
	2ndQ	9週	Unit 9: Meeting Announcement	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		10週	Unit 10: Company Website	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		11週	Unit 11: Curriculum Vitae	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		12週	Unit 12: Call for Paper	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		13週	Unit 13: Registration Form	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		14週	Unit 14: Email	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	
		15週	Unit 15: Research Paper Abstract	内容について理解し、英語の質問に答えることができる。	

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	0	80
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術英語 1		
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	『Exploring SciTech English』 奥村信彦ほか (開隆堂)						
担当教員	野口 隆						
目的・到達目標							
技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、専門分野に関連する論文や、英文マニュアル、ホームページなどを読みこなしていく能力を身につける。また、リスニング能力の向上をめざす。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 毎分120語程度の速度の英語の内容を聴いて理解できる。	目標の速度の英語を正確に理解できる。		目標の速度の英語を十分に理解できる。		目標の速度の英語を理解できない。		
評価項目2 身近な内容や専門分野の基礎的な内容について表現できる。	詳細に表現できる。		十分に表現できる。		全く表現できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教養 C1 教養 C2 教養 D1 専門 E3							
教育方法等							
概要	技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、専門分野に関連する論文や、英文マニュアル、ホームページなどを読みこなしていく能力を身につける。また、リスニング能力の向上をめざす。						
授業の進め方と授業内容・方法	授業前に教科書の内容は読んでいることを前提に授業を行う。 オーラル・イントロダクションを兼ねて内容を理解しているかどうかの確認のために英語による Q&A を行う。 教科書の内容についてグループ・ディスカッションを行い、その内容をまとめて発表する。 また英語によるレポートを適宜課す。						
注意点	辞書は必ず持参すること。 1 単位あたり 30 時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス/学習方法・方略	本講義の目的と学習方法・方略を理解することができる。			
		2週	Unit 1 Fly Your Plane	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		3週	Unit 1 Fly Your Plane	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		4週	Unit 2 The History of QR Code	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		5週	Unit 2 The History of QR Code	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		6週	Unit 3 Codes and Ciphers	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		7週	Unit 3 Codes and Ciphers	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		8週	Unit 4 Can robots Be Good Companions?	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
	4thQ	9週	Unit 4 Can robots Be Good Companions?	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		10週	Unit 5 Laterality: Left-handed vs. Right-handed	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		11週	Unit 5 Laterality: Left-handed vs. Right-handed	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		12週	Unit 6 The Challenger Disaster	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		13週	Unit 6 The Challenger Disaster	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		14週	Unit 7 Lucky Number 113	本文の内容を英語で聞いて理解し、それについて英語で自分の意見を発表することができる。			
		15週	Unit 7 Lucky Number 113	本文の内容を、本文で用いられた語彙や表現を使って要約することができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	20	20	0	20	100

基礎的能力	0	20	0	20	0	20	60
專門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	20	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	情報処理応用論			
科目基礎情報								
科目番号	0015	科目区分	専門 / 必修					
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2					
開設学科	生産システム工学専攻	対象学年	専1					
開設期	前期	週時間数	2					
教科書/教材	適宜講義資料を配布する.							
担当教員	峯脇 さやか							
目的・到達目標								
バイナリモードによる画像ファイル (BMP形式), 音声ファイル (WAV形式) の編集方法を学ぶ. LaTeXによる文書作成の方法を学ぶ.								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
バイナリモードで画像ファイルの作成ができる.	画像ファイルフォーマットの説明と画像ファイルの作成ができる.	画像ファイルの作成ができる.	画像ファイルの作成ができない.					
バイナリモードで音声ファイルの作成ができる.	音声ファイルフォーマットの説明ができ, 音声ファイルの作成ができる.	音声ファイルの作成ができる.	音声ファイルの作成ができない.					
LaTeXによる文書作成ができる.	LaTeXのコマンドが説明でき, LaTeXによる文書作成ができる.	LaTeXによる文書作成ができる.	LaTeXによる文書作成ができない.					
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	バイナリモードによる画像ファイル (BMP形式), 音声ファイル (WAV形式) の編集方法を学ぶ. LaTeXによる文書作成の方法を学ぶ.							
授業の進め方と授業内容・方法	実践的なスキルを身に付けるため, 演習を中心とした内容で進める.							
注意点	講義30時間に対し, 自学自習60時間に相当する課題 (レポート, 作品) を課し, 成績評価に加味する. PCの基本操作スキルを必要とする.							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応				
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業								
授業計画								
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	ガイダンス, バイナリモードによるBMP画像ファイルの編集		バイナリエディタを使用したBMP画像ファイルの作成ができる.			
		2週						
		3週						
		4週						
		5週						
		6週						
		7週	バイナリモードによるWAV音声ファイルの編集		バイナリエディタを使用したWAV音声ファイルの作成ができる.			
	2ndQ	8週						
		9週						
		10週						
		11週						
		12週						
		13週	LaTeXによる文書作成		LaTeXによる文書作成ができる.			
		14週						
		15週						
		16週						
評価割合								
	試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果物・実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	40	0	60	0	0	100
知識の基本的な理解	0	0	0	0	40	0	0	40
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	0	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	40	0	20	0	0	60
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	0	0

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	0	0	0
-----------------	---	---	---	---	---	---	---	---

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	画像応用システム工学		
科目基礎情報							
科目番号	0016		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	デジタル画像処理, CG-ARTS協会						
担当教員	田房 友典						
目的・到達目標							
カメラやスキャナが小型化かつ高精度となり、携帯電話や家電製品にも組み込まれている。また、撮影された画像はネットワークを利用して転送されるため、場所を問わず画像処理を行うことができる。本講義では、画像応用技術として、特にWEB上で画像を取り扱う技術を習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	GDを利用してWEB上で画像処理を行い、応用することができる。		GDを利用してWEB上で画像処理を行うことができる。		GDを利用してWEB上で画像処理を行うことができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	本教科の英語表記は、Image Application Systems Engineeringである。						
授業の進め方と授業内容・方法	大別して6テーマについて講義を行い、プログラミングによる実習と発表を行う。さらに、その内容についてレポートによる報告を行う。						
注意点							
実務経験のある教員による授業科目							
この科目は、企業で動画伝送技術の設計業務を担当していた教員が、その経験を活かし、画像の応用技術、Web上での画像応用システムの実装技術などについて、講義と演習形式で授業を行う。							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション				
		2週	GDとWEBプログラミング				
		3週	画像の入出力			PHPを用いてGDライブラリの利用ができ、Web上で次週以降のテーマについて実現できる。	
		4週	テーマ1：画像ファイルのサイズ変更				
		5週	実習と発表				
		6週	テーマ2：画像の濃淡変換				
		7週	実習と発表				
		8週	テーマ3：文字の画像化				
	4thQ	9週	実習と発表				
		10週	テーマ4：画像合成				
		11週	実習と発表				
		12週	テーマ5：画像のトリミング				
		13週	実習と発表				
		14週	テーマ6：自由課題				
		15週	実習と発表				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	70	0	0	100
基礎的能力	0	20	0	40	0	0	60
専門的能力	0	10	0	30	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	人工知能特論		
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	E-learning サイト : http://moodle2020.center.yuge.ac.jp						
担当教員	長尾 和彦						
目的・到達目標							
<p>コンピュータが発明されて以来人間の知的活動を肩代わりするものとして、コンピュータには多くの期待が寄せられてきた。人工知能 (AI) は、一時期のブームを越え、現実的な技術として応用段階に入っている。</p> <p>本講義では、ゲーム分野における人工知能の応用例を学習し、実際のカードゲームにおけるアルゴリズムの構築について考察する。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
人工知能の役割・目的・視点について理解できる	AIの応用事例とトピックを説明できる		AIの応用事例を複数あげることができる		AIの応用分野を挙げられない		
基本的な探索手法を活用できる	具体的な問題に応用できる		例題の動作が理解できる		動作が理解できない		
知識の表現方法を理解し、適切な表現方法を選択できる	知識表現の特徴に応じ利用できる		知識表現の特徴を説明できる		知識表現を分類できない		
具体的な問題に人工知能的アプローチを適用できる	プログラムを開発できる		対戦可能なプログラムを開発できる		対戦可能なプログラムを作成できない		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C3 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	人工知能分野で注目されているトピックについて演習テーマを定め、学習内容を各自で定める。 機械学習による画像認識、ゲーム (人狼知能、大貧民) など						
授業の進め方と授業内容・方法	人工知能分野で注目されているトピックについて演習テーマを定め、応用プログラムの開発を行う。 ・プログラム言語として Java を用いる。 ・作成した資料は moodle に登録すること。 ・moodle に学習記録を残すこと。						
注意点	・作成したプログラムの対戦結果を評価に反映する。 ・プログラム開発で、時間外の活動 (60 時間相当) を課す。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス(moodle の使い方)				
		2週	Eclipse の使い方				
		3週	人工知能の定義		人工知能の活用分野、技術について概要を理解できること。		
		4週	知識と推論/探索手法				
		5週	演習用プログラムの作成		例) カードゲーム「大貧民」のプレイヤープログラムの作成を通して、知的なプログラム作成ができること。		
		6週	開発 (1) 開発環境の構築		例) 機械学習による画像認識		
		7週	開発 (2)				
		8週	相互評価とフィードバック				
	4thQ	9週	開発 (3)				
		10週	開発 (4)				
		11週	開発 (5)				
		12週					
		13週	実用化された人工知能		日常生活で実用化された人工知能について調査し、レポートをまとめる		
		14週					
		15週	レポート作成・提出				
		16週	講評・まとめ				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	80	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	40	0	0	40
専門的能力	0	0	0	20	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	20	0	0	20
学習意欲	0	0	0	0	20	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	データ構造		
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	E-learning サイト : http://moodle2021.center.yuge.ac.jp						
担当教員	長尾 和彦						
目的・到達目標							
プログラミングは計算機による問題解決の唯一の手段である。本講義は、プログラミング作業を形式化したオブジェクト指向プログラミング、デザインパターンの概念について解説し、問題解決法の習得を目標とする。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
アルゴリズムと計算量	アルゴリズムの計算量を増加率で算出できる	アルゴリズムの計算量の定義を理解できる	計算量の定義が理解できない				
基本的データ構造	リスト・スタック・キューのデータ構造の特徴と実現方法を示すことができる	リスト・スタック・キューのデータ構造の特徴を示すことができる	リスト・スタック・キューのデータ構造の用途を説明できない				
順序つき集合	優先順序付き待ち行列・2分探索木が実装できる	優先順序付き待ち行列・2分探索木が説明できる	優先順序付き待ち行列・2分探索木が説明できない				
ソート	バブル・バケット・ヒープ・クイックのアルゴリズムが実装できる	バブル・バケット・ヒープ・クイックのアルゴリズムが利用できる	バブル・バケット・ヒープ・クイックのアルゴリズムが理解できない				
アルゴリズムの設計手法	カズク法、欲張り法、分割統治法、動的計画法のアルゴリズムによる実装ができる	カズク法、欲張り法、分割統治法、動的計画法のアルゴリズムの説明ができる	カズク法、欲張り法、分割統治法、動的計画法の説明ができない				
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	プログラミングは計算機による問題解決の唯一の手段である。本講義は、プログラミング作業を形式化したオブジェクト指向プログラミング、デザインパターンの概念について解説し、問題解決法の習得を目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	演習のプログラム言語として、Java・Processing などを用いる。 本講義は豊橋技術科学大学の対応科目の遠隔受講により、オンデマンド形式で学習を進めること。 学習記録をmoodleに残す。						
注意点	達成目標全体の達成度を総合的に評価する最終試験により評価する。 最終試験では、データ構造やアルゴリズムの仕組み（メカニズム）を理解しているかどうかに重点を置く。 参考書：平田富夫、「アルゴリズムとデータ構造—改訂C言語版」森北出版，2002						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス・受講登録	授業目的を理解し、moodleの使い方について体験する。自習課題：遠隔授業の方法に習熟する			
		2週	アルゴリズムとその計算量（問題と問題例/計算量の評価/オーダー表記）	豊橋技科大の資料に基づき自主学習を行う			
		3週					
		4週	基本的なデータ構造（リスト、スタック、キュー）				
		5週					
		6週	グラフと木、木の用語、木のデータ構造、動的木、木の高さの解析				
		7週					
	8週	探索のためのデータ構造（順序つき集合）：2分探索、2分探索木、平衡探索木、ハッシング（辞書）					
	2ndQ	9週					
		10週	整列（ソーティング）：バケットソート（基数ソート）、ヒープソート、分割統治法（クイックソート、マージソート）、クイックソートの平均計算量、計算量の下界				
		11週					
		12週	その他、発展的課題：順序統計量、Union-Find問題、最小全域木問題など				
		13週					
		14週					
		15週	達成度テスト	プリントによる試験実施を予定			
16週		試験問題の解説					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	20	0	0	50
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	コンピュータ機械設計		
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	使用せず適宜指示する						
担当教員	沖 俊任						
目的・到達目標							
CAD・CAE・CAM (Computer Aided Design・Computer Aided Engineering・Computer Aided Manufacturing) について、基本操作の習得を行う。 設計に必要な数値解析や数式処理について、基本操作を習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
CAD・CAE・CAMを用いて機械設計ができる。	作成した作品の評価ができ、修正してより良い作品にできる。		操作ができる。		操作ができない。		
数式処理システムで式の変形ができる。	特別研究などに応用できる。		簡単な数学計算ができる。		数式処理システムが操作できない。		
数値処理システムでシミュレーションが使用できる。	特別研究などに応用できる。		簡単な数学計算ができる。		数値処理システムが操作できない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法							
注意点 講義に用いるソフトウェアは、フリーソフトを用いる予定である(登録が必要なものがある)。パソコンを持っているならば、各自でもインストールして十分使えるようになることが望ましい。持っていない場合は、PC室で十分練習すること。 1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。							
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、および、3DCADについて		授業の進め方と採点の方法について理解する。		
		2週	CADを用いた機械設計		3DCADを用いて簡単な機械設計ができるようになる。		
		3週	ソフト: PTC製: Creo Elements Direct Modeling Express				
		4週	パーツ、アッセンブリ、2D図面				
		5週					
		6週	CAEを用いた構造解析		3DCAD作った構造物に対してCAEで構造解析を行うことができる		
		7週	ソフト: Fine Element Technologies製: LISA				
		8週	有限要素法				
	4thQ	9週	CAMを用いたNCプログラミング		3DCAD作った構造物をNCで作成するためのGコードを作ることができる。3Dプリンタとの比較が説明できる。		
		10週	ソフト: MecSoft製: VisualCADCAM				
		11週	NC、3Dプリンタとの比較				
		12週	数式処理システムを用いた技術計算		数式処理システムを用いて簡単な数式処理ができる		
		13週	ソフト: wxMaxima				
		14週	数値計算システムを用いたシミュレーション		数値処理システムを用いて簡単なシミュレーションができる。		
		15週	ソフト: SCILAB				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
知識の基本的な理解	0	0	0	0	40	0	40
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	0	60	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	トライボロジー
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	トライボロジー入門：岡本純三・中山景次・佐藤昌夫（幸書房）				
担当教員	藤本 隆士				
目的・到達目標					
機械の性能を十分に発揮させるために欠かすことのできないトライボロジー問題について、概論を理解し、工業的に摩擦、摩耗、潤滑といった問題がどのように扱われているのかを知る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
表面粗さの表し方が説明できる	説明できる	少し知っている	説明できない		
硬さの概念と表し方が説明できる	説明できる	少し知っている	説明できない		
アモントンクーロンの法則が説明できる	説明できる	少し知っている	説明できない		
摩耗や表面損傷の種類を知っている	説明できる	少し知っている	知らない		
潤滑状態の種類の分類を知っている	説明できる	少し知っている	知らない		
潤滑油の役割、粘度の表し方、代表的な添加剤の役割などを知っている	説明できる	少し知っている	知らない		
グリースの特徴、ちょう度の表し方を知っている	説明できる	少し知っている	知らない		
学科の到達目標項目との関係					
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C3 教養 D1 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	機械の性能を十分に発揮させるために欠かすことのできないトライボロジー問題について、概論を理解し、工業的に摩擦、摩耗、潤滑といった問題がどのように扱われているのかを知る。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義を基本とし、理解を助けるために板書、計算問題を実施する。授業内容は、表面、接触、摩擦、摩耗、潤滑を中心とする。				
注意点	1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 表面	トライボロジーとは何かがわかる。表面の構造を知っている。自学として教科書の目次～第1章の終わりまで読んでおく。(自学自習1時間分)	
		2週	接触と硬さ	真実接触面と硬さの関係がわかる。硬さの種類と表し方を知っている。自学の範囲：第2章 (P9～P20) (1.5時間分)	
		3週	表面粗さと摩擦	粗さの表し方を知っている。アモントンクーロンの法則を知る。自学：第2章 (P16～P24) (1時間分)	
		4週	摩擦と摩耗	アモントンクーロンの法則を知っている。摩擦の3つの要因を知っている。表面の損傷の種類、摩耗の種類などの特徴を知っている。自学：第3章 (P27～P37) (2時間分)	
		5週	表面損傷	表面の損傷の種類、摩耗の種類などの特徴を知っている。自学：第4章 (P39～P52) (2時間分)	
		6週	表面損傷	表面の損傷の種類、摩耗の種類などの特徴を知っている。自学：第4章 (P39～P52) (1時間分)	
		7週	潤滑油の作り方	潤滑油の作り方を知っている。自学：第5章 (P53～P58) (1.5時間分)	
		8週	潤滑状態	潤滑方法と潤滑状態の種類とそれぞれの名称と特徴を知っている。自学：第3章 (P28～P37) を読み直しておく。(0.5時間分)	
	4thQ	9週	潤滑油の特徴	潤滑油の特徴、粘度の表し方、粘度指数、添加剤について知っている。自学：第5章 (P53～P57) (1時間分)	
		10週	潤滑油の特徴	粘度指数、添加剤について知っている。自学：第5章 (P58～P65) (1時間分)	
		11週	潤滑油の特徴	潤滑油の特徴、粘度の表し方、粘度指数、添加剤について知っている。自学：第5章 (P65～P76)、自学課題：プリネル硬さ測定についてのレポート作成 (7時間分)	

		12週	潤滑油 グリース・固体潤滑剤	潤滑油の特徴, 粘度の表し方, 粘度指数, 添加剤について知っている。自学: 第6章 (P77~P83) (1時間分)
		13週	グリース・固体潤滑剤	潤滑用グリースの特徴, ちょう度の表し方を知っている。自学: 第6章 (P83~P86)、自学課題: ビッカース硬さ測定について (7時間分)
		14週	潤滑理論	ジャーナル軸受けの潤滑理論の発展の流れを知っている。自学: 第7章 (P87~P90) (1時間分)
		15週	潤滑理論	ジャーナル軸受けの潤滑理論の流速分布を知っている。自学: 第7章 (P90~P97) (0.5時間分)
		16週	潤滑理論、成績周知	ジャーナル軸受けの潤滑理論の圧力発生要因を知っている。自学: 第7章 (P90~P97) (1時間分)

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
知識の基本的な理解	50	0	0	0	0	0	50
主体的・継続的な学習意欲	0	0	10	0	0	0	10
態度・志向性(人間力)	10	0	10	0	0	0	20
総合的な学習経験と創造的思考力	10	0	10	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	物理学特論		
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜講義資料を配付する。						
担当教員	牧山 隆洋						
目的・到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
理論的計算	立式し、計算することができる。		立式ができる。		立式ができない。		
実験	実験を行い、現象を伝えることができる。		実験を行い、現象を理解できる。		実験ができない。		
数値シミュレーション	プログラムを主体的に動かすことができる。		基礎的なプログラムを動かすことができる。		プログラムがかけない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	実験は自然の一貫性を調べる最良の手段である。毎回の授業で学生実験・演示実験を導入し、学生の理解を深める。						
授業の進め方と授業内容・方法	実験・観察と計算を併用した授業を実施する。古典物理の主要実験を一通り行わせた後、現代物理を紹介する。						
注意点	日々の授業態度を評価する。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	重力加速度の測定			古典力学の実験を行って、法則を確認する。	
		2週	運動方程式の検証				
		3週	円運動の検証				
		4週	ばね振り子・単振り子の周期の測定				
		5週	力学的エネルギーの実験				
		6週	波動実験				
		7週	比熱の測定・気体の実験				
		8週	ブレッドボードによるオームの法則				
	2ndQ	9週	ブレッドボードによるキルヒホッフの法則				
		10週	磁場の測定				
		11週	霧箱の実験・光電効果の実験			実験・数値実験によって、現代物理学を学ぶ。	
		12週	素粒子物理学の紹介				
		13週	数値実験の説明 (Fortran90 or C)				
		14週	数値実験による量子力学				
		15週	数値実験による量子力学 (予備)				
		16週	成績確認 (予備)				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	30	40	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	40	0	0	40
専門的能力	0	30	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	30	0	0	0	30

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	環境化学概論		
科目基礎情報							
科目番号	0022		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	配布プリントを用いる		参考資料: 地球環境化学入門 J.Andrews et al 著 渡辺 正 訳 (シブリング・フェアーク 東京)				
担当教員	伊藤 武志						
目的・到達目標							
<p>高度な技術者として活躍する際に最低限認識すべき地球環境とその環境問題の知見を修得する。 さまざまな化学物質が自分達の身のまわりの自然界でどんなふるまいをして、その結果どのようなことが起こっているか、またその解決方法等について理解する。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
大気・土壌・水質汚染の学的特性および環境問題について説明することができる。	環境問題について、将来起こりえる問題も含め説明できる。		基本的な環境問題について説明できる。		基本的な環境問題について説明できない。		
化学的・物理的実験から環境問題に関する分析や研究ができる。	環境やそれに関する研究について、自ら立案・研究ができる。		立案された環境問題に関する研究・測定・装置の組立ができる。		環境問題に関する実験ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E3							
教育方法等							
概要	環境問題が年々深刻になるにつれて、その理解にとって不可欠な「環境化学」という学問が重要性を増してきている。さまざまな化学物質が自分達の身のまわりの自然界でどんなふるまいをして、その結果どのようなことが起こっているかを解説する。また、環境問題の解決手段や分析方法について、多方面から紹介していく。						
授業の進め方と授業内容・方法	配布プリントやプロジェクターを用いて実験・研究を中心に授業を行う。						
注意点	欠席の場合は補習実験を行う。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス・序論		幅広い定義で環境問題の概念、現状を説明できる。		
		2週	地球のなりたち		現在の地球環境がどのようにしてできたか説明できる。		
		3週	大気汚染 ①		代表的な大気汚染の原因・物質について説明ができる。		
		4週	大気汚染 ② 上島町周辺の大気分析		代表的な大気汚染の原因・物質について説明ができ、分析することができる。		
		5週	水質汚染①		代表的な水質汚染の原因・物質について説明ができる。		
		6週	水質汚染② 上島町周辺の水質分析		代表的な水質汚染の原因・物質について説明ができ、分析することができる。		
		7週	土壌汚染		土壌汚染の特徴や原因・物質について説明することができる。		
	8週	微生物実験 (上島町土壌・活性汚泥の測定)		土壌分析や生物分析ができ、活性汚泥を用いた環境問題の解決手段を説明できる。			
	4thQ	9週	上島町の微生物環境・廃棄物について		生物について、幅広く理解することができる。上島町の環境状態を理解することができる。		
		10週	水質浄化		下水処理場等で用いられている水質浄化法について理解することができる。		
		11週	エネルギー問題		現在問題になっているエネルギーに関する問題を理解することができる。		
		12週	次世代エネルギー		次世代エネルギーと呼ばれる水素や最新の発電方法について理解することができる。		
		13週	エネルギー生産実験		廃棄物から微生物を用いたエネルギー生産や最新の発電システムへの応用を理解することができる。		
		14週	課題研究 (瀬戸内海的环境問題解決) ①		瀬戸内海的环境問題を調べ、これらを解決する方法を立案・研究することができる。		
		15週	課題研究 (瀬戸内海的环境問題解決) ②		瀬戸内海的环境問題を調べ、これらを解決する方法を立案・研究することができる。		
16週							
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	実験レポート・演習	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	60	0	0	0	5	5	70
専門的能力	10	0	0	0	5	5	20

分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10
---------	----	---	---	---	---	---	----

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	材料学特論
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜プリント配布				
担当教員	村上 知弘				
目的・到達目標					
<p>科学技術の発展の背景には、ナイロンによる繊維産業や半導体によるコンピュータ産業の発展のように常に画期的な新素材の出現が伴っている。近年も新素材の創製は重要課題であり、情報産業のためのエレクトロニクス材料やライフサイエンスのための生体材料や工学のためのロボティクス材料が注目されている。これらの材料を中心に、過去から将来に役立つ工学材料について学ぶ。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
機能性材料	機能性材料を理解でき、その応用を考慮することができる。		機能性材料を理解することができる。		機能性材料を理解することできない。
バイオメテック材料	バイオメテック材料を理解でき、その応用を考慮することができる。		バイオメテック材料を理解することができる。		バイオメテック材料を理解することできない。
ソフトマテリアル	ソフトマテリアルを理解でき、その応用を考慮することができる。		ソフトマテリアルを理解することができる。		ソフトマテリアルを理解することできない。
学科の到達目標項目との関係					
専門 A1 専門 A2 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	科学技術の発展の背景には、ナイロンによる繊維産業や半導体によるコンピュータ産業の発展のように常に画期的な新素材の出現が伴っている。近年も新素材の創製は重要課題であり、情報産業のためのエレクトロニクス材料やライフサイエンスのための生体材料や工学のためのロボティクス材料が注目されている。これらの材料を中心に、過去から将来に役立つ工学材料について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	最新の論文から、機能性材料を学ぶ。論文の探し出す技術や論文からの情報の選択方法も学ぶ。1単位当たり30時間の自主学習を必要とする。自習学習では、講義で使用する論文を事前に読んでおくこと。				
注意点	無断で欠席しない。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	材料学特論で学ぶべき項目を理解する	
		2週	機能性材料	機能性材料が理解できる	
		3週	機能性材料	機能性材料が理解できる	
		4週	機能性材料	機能性材料が理解できる	
		5週	エコマテリアル	エコマテリアルが理解できる	
		6週	エコマテリアル	エコマテリアルが理解できる	
		7週	エコマテリアル	エコマテリアルが理解できる	
		8週	バイオメテックス材料	バイオメテックス材料が理解できる	
	2ndQ	9週	バイオメテックス材料	バイオメテックス材料が理解できる	
		10週	バイオメテックス材料	バイオメテックス材料が理解できる	
		11週	ナノコンポジット材料	ナノコンポジット材料が理解できる	
		12週	ナノコンポジット材料	ナノコンポジット材料が理解できる	
		13週	ナノコンポジット材料	ナノコンポジット材料が理解できる	
		14週	ソフトマテリアル	ソフトマテリアルが理解できる	
		15週	ソフトマテリアル	ソフトマテリアルが理解できる	
		16週	ソフトマテリアル	ソフトマテリアルが理解できる	
評価割合					
	成果物	発表	態度	合計	
総合評価割合	30	60	10	100	
基礎的能力	10	20	0	30	
専門的能力	20	40	0	60	
分野横断的能力	0	0	10	10	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	材料強度学		
科目基礎情報							
科目番号	0024		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	政家 利彦						
目的・到達目標							
材料の強度について基本となる材料力学・弾性力学を踏まえて、金属材料原子の構造・格子欠陥によって材料の変形・破壊が起こることを理解する。また、塑性変形や破壊の一般的な考えや式についても原子レベルでの知識を踏まえて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1 原子・電子の構造と格子欠陥から材料の強度を説明することができる。	原子・電子の構造と格子欠陥から材料の強度を説明することができる。	格子欠陥が材料の強度に関係することを説明することができる。	格子欠陥が材料の強度に関係することを説明できない。				
評価項目2 塑性変形・破壊に関する基本的な現象や式を理解することができる。	塑性変形・破壊に関する基本的な現象や式を理解することができる。	塑性変形を経て破壊に至る過程を理解することができる。	塑性変形を経て破壊に至る過程を理解できない。				
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	材料の強度について基本となる材料力学・弾性力学を踏まえて、金属材料原子の構造・格子欠陥によって材料の変形・破壊について講義する。また、塑性変形や破壊の一般的な考えや式についても原子レベルでの知識を踏まえて講義する。						
授業の進め方と授業内容・方法	材料力学、材料学、設計製図4、5の復習とともに学習を進める。						
注意点	1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	材料強度学で学ぶ内容を理解できる。			
		2週	原子レベルでの金属	原子レベルでの金属を理解できる。			
		3週	点欠陥と拡散	原子空孔と格子間原子と拡散を理解できる。			
		4週	転位論の基礎	転位論の基礎を理解できる。			
		5週	結晶粒界とホールペッチの関係	ホールペッチの関係を理解できる。			
		6週	原子間ポテンシャル	原子間ポテンシャルを理解できる。			
		7週	小テスト	ここまでの内容を踏まえた小テストを解くことができる。			
	4thQ	8週	基礎的な弾性力学	基礎的な弾性力学を理解できる。			
		9週	材料の破壊様式	材料の破壊様式を理解できる。			
		10週	Griffithの理論	Griffithの理論を理解できる。			
		11週	応力拡大係数	応力拡大係数を理解できる。			
		12週	J積分の基礎	J積分の基礎を理解できる。			
		13週	疲労	疲労を理解できる。			
		14週	クリープ	クリープを理解できる。			
		15週	ひずみ速度	ひずみ速度を理解できる。			
		16週	粘弾性力学	粘弾性力学を理解できる。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	0	0	0	70	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	40	10	50
専門的能力	20	0	0	0	20	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	感性工学		
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	参考書: 感性をめぐる商品開発-その方法と実際: 長沢伸也 (日本出版サービス)、各種論文など。						
担当教員	長井 弘志						
目的・到達目標							
感性評価のための諸手法や応用例を取り上げ、感性についての具体的な知識を深めることを目的とする。さらに、感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例について、理解を深めることを目的とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
感性工学の概念と感性の評価方法が説明できる。	感性工学の概念と2つ以上の感性の評価方法が説明できる。		感性工学の概念が説明できる。		感性工学の概念が説明できない。		
論文などから収集した具体的な感性に関する評価研究例について、プレゼンテーションを行うことができる。	具体的な感性に関する評価研究例について、プレゼンテーションを行うことができる。		具体的な感性に関する評価研究例について、レポートにまとめることができる。		具体的な感性に関する評価研究例について、レポートにまとめることができない。		
新聞、雑誌などから収集した具体的な感性に働きかける製品事例について、評価方法を検討することができる。	具体的な感性に働きかける製品事例について、評価方法を検討することができる。		具体的な感性に働きかける製品事例について、レポートにまとめることができる。		具体的な感性に働きかける製品事例について、レポートにまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 教養 B2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	感性工学とは、計量化の難しい人間の感覚や感性を技術的に取り扱えるようにするための方法論であり、人とかかわるすべての「もの」に関係する考え方である。感性の計測・評価は、感覚生理や感覚心理の問題がからんでくるため、物理的な測定と異なり、色々な工夫が必要となる。本講義では、感性評価のための諸手法や応用例を取り上げ、感性についての具体的な知識を深める。						
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義前半では、座学の講義を基本とする。 講義後半では、感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例をプレゼンテーション形式で各自発表し、その後質疑応答を行う。 						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 本教科の英語表記は、Kansei Engineeringである。 1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。 普段から積極的な姿勢で、新聞、雑誌、論文などから感性についての資料を収集すること。 						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	感性とは			感性ついて理解できる。	
		3週	比較評価と独立評価			感性の比較評価について理解できる。	
		4週	比較評価と独立評価			感性の独立評価について理解できる。	
		5週	識別による評価と解析			感性の識別による評価について理解できる。	
		6週	識別による評価と解析				
		7週	識別による評価と解析				
		8週	識別による評価と解析				
	2ndQ	9週	評価尺度について			感性の評価尺度について理解できる。	
		10週	評価尺度について				
		11週	SD法による評価と解析			感性のSD法による評価について理解できる。	
		12週	SD法による評価と解析				
		13週	感性評価と製品開発			感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例を理解する。	
		14週	感性評価と製品開発				
		15週	感性評価と製品開発				
		16週					
評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50
専門的能力	20	20	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
プレゼンテーション力	0	10	0	0	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	システム制御			
科目基礎情報								
科目番号	0026		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	教科書: 自作資料、参考書: 山本透ほか著「線形システム制御論」朝倉書店							
担当教員	徳田 誠							
目的・到達目標								
システムの内部状態に着目する現代制御理論について学習し、技術者として求められる基礎的な解析能力や設計能力を身に付ける。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
システムの状態変数表示法	微分方程式から状態方程式を導出し、その解を求められる。		微分方程式から状態方程式を導出できる。		微分方程式から状態方程式を導けない。			
線形変換と対角標準形	求めた対角化行列から対角標準形に変換できる。		与えられた対角化行列から対角標準形に変形できる。		与えられた対角化行列から対角標準形に変形できない。			
フィードバック制御による極指定	フィードバック制御系を設計できる		フィードバック制御系の理論が分かる。		フィードバック制御系の理論が分からない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2								
教育方法等								
概要	システムの内部状態に着目する現代制御理論について学習し、技術者として求められる基礎的な解析能力や設計能力を身に付ける。							
授業の進め方と授業内容・方法	座学が中心であり、授業ごとに課題を課す。理論の習得だけに偏らないよう、身近な物理モデルを例に挙げたり、練習問題を多く取り入れる。							
注意点	1単位につき30時間の自学自習を必要とする。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス					
		2週	状態変数と状態方程式および出力方程式			微分方程式から状態方程式と出力方程式が導出できる		
		3週	状態変数と状態方程式および出力方程式					
		4週	伝達関数とブロック線図からの状態変数表示			ブロック線図から状態方程式を導出できる		
		5週	状態方程式の解とシステム応答			状態方程式の解が導出できる		
		6週	状態方程式と伝達関数			状態方程式からブロック線図を描ける		
		7週	中間課題					
	8週	中間課題の解説 (成績周知)						
	2ndQ	9週	線形変換			対角化行列から線形変換が行える		
		10週	対角標準形			対角化行列を導出できる		
		11週	可制御性と可観測性			可制御性と可観測性を判定できる		
		12週	状態フィードバック制御による極指定			状態フィードバック制御系を設計できる		
		13週	出力フィードバック制御による極指定			出力フィードバック制御系を設計できる		
		14週	期末課題					
		15週	期末課題の解説 (成績周知)					
16週								
評価割合								
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100	
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	生産システム工学演習		
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	後期:4			
教科書/教材	機械系: 必要に応じて資料を配布する 情報系: 必要に応じて資料を配布する						
担当教員	徳田 誠, 瀬濤 喜信, 政家 利彦, 榎田 温子						
目的・到達目標							
生産システム工学専攻の中心となる機械系および情報系に関するものと、その周辺技術に関する科目への理解を深め、技術者として求められる、緻密さ、創造性、および安全への配慮などの能力を養う。演習への取り組みと提出物の完成度に基づき総合的に評価する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
コンピュータを用いた基本的な強度評価シミュレーションができる。		強度評価シミュレーションができる。	強度評価が理解できる。	強度評価が理解できない。			
コンピュータを用いた基本的な回路シミュレーションができる。		回路シミュレーションができる。	回路シミュレーションを理解できる。	回路シミュレーションが理解できない。			
基礎的なUMLの作成ができる。		UMLが描ける。	基礎的なUMLが描ける。	基礎的なUMLが描けない。			
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法	本教科の英語表記は、Advanced Production Systems Engineering Practiceで、担当教員は、瀬濤、政家、徳田、榎田の4名である。よく見られる工学的な諸問題について例を挙げて説明し、演習を行う。講義と演習を組み合わせた形式で進めるが、本科目では演習に重点が置かれる。なお、演習の実施に際して担当教員の他に複数の補助者がつくことがある。						
注意点							
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	機械系				
		2週	テーマ1: コンピュータ援用設計・・・政家 30h	基本的な形状に引張、曲げ、ねじりが作用する場合の強度評価解析を有限要素法を用いた解析ソフトで行い、その結果を検証できる。			
		3週	基礎的な材料力学の式を再現するための解析				
		4週	テーマ2: 電気・電子回路・・・瀬濤 30h	回路解析ソフトを用いて、回路図エディタによる回路図作成および各回路解析をすることができる。			
		5週	回路図エディタで回路を作成した直流回路・交流回路・トランジスタ・OPアンプ・OPアンプによるアナログ回路の解析				
		6週					
		7週	情報系				
		8週	テーマ: 基礎的なUMLの作成・・・徳田、榎田 60h	基礎的なUMLを作成できる。			
	4thQ	9週	ユースケース図、アクティビティ図、パッケージ図、クラス図、シーケンス図の修得など				
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	レポート	成果物・実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	80	20	0	0	100
知識の基本的な理解	0	0	40	10	0	0	50
思考・推論・創造への適応力	0	0	20	0	0	0	20
汎用的技能	0	0	10	10	0	0	20
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	10	0	0	0	10

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	0	0
-----------------	---	---	---	---	---	---	---

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	システム L S I 設計		
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	参考書: 「FPGA プログラミング大全」 (小林優著)						
担当教員	葛目 幸一						
目的・到達目標							
携帯電話や情報家電に代表されるように、ほとんどの電子機器では小型・軽量化が必須となっている。これを実現する技術として、システムをワンチップにLSI化する技術が注目されている。講義では、デジタル回路システムをワンチップ化するための技術を座学と演習を組み合わせることで、より実用的な技術を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
LSI設計技術の概論を理解する。	システムの設計ができ動作評価できる。	LSI設計技術の概要が簡単に説明できる。	LSI設計技術の概要が説明できない。				
VHDLを用いてデジタル回路を記述でき、FPGA開発システムを用いてシミュレーションができる。	LSI設計技術の概要が詳細に説明できる。	簡単な回路をVHDLで記述しシミュレーションできる。	簡単な回路をVHDLでの記述やシミュレーションできない。				
システムのトップダウン設計ができ、FPGA開発システムを用いて実際にデジタルシステムの設計ができ動作評価できる。	複雑な回路でもVHDLで記述しシミュレーションできる。大規模なデジタルのトップダウン設計し実動作確認ができる。	小規模なシステムをトップダウン設計し実動作確認できる。	小規模なデジタルシステムでもトップダウン設できない。				
学科の到達目標項目との関係							
専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要	各章ごとに教員がPPTにより講義を行った後、PCを用いて演習を行う。基本的な、回路設計、シミュレーション技術を身につけた後、各自が、独自のシステムを提案し、実際にFPGA上に実装する。作成したシステムは、実機によりデモし、評価を受ける。						
授業の進め方と授業内容・方法	座学と並行して、演習を行う。また、各章ごとにレポートを提出させ、理解の程度を評価する。						
注意点	関連する専門科目も合わせて学習すること (電気回路、論理回路、システムインターフェース、情報通信伝達工学)。 1 単位につき30 時間の自学自習を必要とする。 講義3 0 時間に対し、自己学習6 0 時間に相当する課題 (レポート、データ処理課題) を課し、成績評価に加味する。						
実務経験のある教員による授業科目							
この科目は、企業でLSIの設計業務を担当していた教員が、その経験を活かし、LSI設計の基礎的な考え方やシミュレーション技術、実装技術などについて、講義と演習形式で授業を行う。							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス (LSI 設計技術の概要)	LSI 設計技術の概要が説明できる			
		2週	論路回路の復習	組み合わせ回路、順序回路の動作説明ができる			
		3週	ハードウェア記述言語 (VHDL) の基礎 (1) XILINX 社製FPGA 開発システムの使用法の習得	VHDL を用いて、基本的なデジタル回路を記述することができる			
		4週	VHDL の基本文法の習得 (2) 組み合わせ回路の記述	VHDL を用いて、基本的なデジタル回路を記述することができる			
		5週	(3) 順序回路の記述	VHDL を用いて、基本的なデジタル回路を記述することができる			
		6週	(4) テストパターンの生成法	VHDL を用いて、基本的なデジタル回路を記述することができる			
		7週	(5) 同期システムと非同期システムとは	同期システムの設計ができる			
		8週	(6) システムのトップダウン設計法の習得	FPGA 開発システムを使いこなすことができる			
	4thQ	9週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	システムを機能別ブロックに分解し記述できるシステムを機能別ブロックに分解し記述できる			
		10週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		11週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		12週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		13週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		14週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		15週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価	FPGA を使って実システムを評価できる			
		16週	FPGA を用いたシステムLSI の設計演習と動作評価 (発表会)	FPGA を使って実システムを評価できる			
評価割合							
	試験	発表	成果物・実技	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	70	0	0	0	100

基礎的能力	0	10	40	0	0	0	50
專門的能力	0	10	10	0	0	0	20
分野横断的能力	0	10	20	0	0	0	30

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	電子回路応用		
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	最新アナログ電子回路のキホンのキホン: 木村誠聡資 (秀和システム)						
担当教員	瀬濤 喜信						
目的・到達目標							
トランジスタを用いたアナログ回路の増幅回路の設計およびオペアンプを用いた種々の演算回路の設計ができるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
トランジスタ・オペアンプを使った増幅回路を理解できる	トランジスタ・オペアンプを使った増幅回路を理解できる		トランジスタ・オペアンプの性質が理解できる		トランジスタ・オペアンプの性質が理解できない		
オペアンプを使った演算回路を理解できる	演算回路を理解できる		加減算、微分積分回路がわかる		加減算、微分積分回路がわからない		
フィルター回路を理解できる	フィルター回路を理解できる		ローパス、ハイパスフィルターがわかる		ローパス、ハイパスフィルターがわからない		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法	○学習上の留意点および助言: 必ず問題を解く復習をし、問題を解く能力を修得するとともに、理解度を自己チェックすること。						
注意点	1 単位当たり30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	アナログ回路に必要な法則	回路網解析の計算ができる			
		3週	アナログ回路を構成する部品	受動・能動素子を理解できる			
		4週	トランジスタを使った増幅回路	トランジスタを使った増幅回路を理解することができる			
		5週					
		6週	マルチバイブレータ	各種マルチバイブレータを理解できる			
		7週					
		8週	オペアンプを使った増幅回路	オペアンプを使った増幅回路を理解できる			
	4thQ	9週					
		10週	オペアンプを使った演算回路	オペアンプを使った演算回路を理解できる			
		11週					
		12週	フィルター回路	フィルター回路を理解できる			
		13週					
		14週	タイマー回路	タイマー回路を理解できる			
		15週	試験				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	70	0	0	0	0	0	70
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別研究 3			
科目基礎情報								
科目番号	0030		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 5				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2				
開設期	前期		週時間数	前期:15				
教科書/教材	各教員の指示による							
担当教員	徳田 誠, 葛目 幸一, 田房 友典, 榎田 温子, 前田 弘文, 益崎 智成							
目的・到達目標								
本科における学習、及び専攻科で得た知識を基礎として、より高いレベルの専門分野の研究を行う。学術講演会（学外発表）・学内発表会などを体験することにより、プレゼンテーション能力を養う。また、論文作成により、専門的な問題に対して、適切に対応できる力を養う。特別研究への取組姿勢や研究の完成度に基づき、総合的に評価する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1 専門分野の理論習得、周辺分野の知識習得、仕様の策定	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目2 実験やシミュレーションによるデータ収集、仕様に基づくものづくり	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目3 データの解析と考察、第三者の評価に基づく改良	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目4 学術論文形式での記録、プレゼンテーションによる説明	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	研究を指導する教員の下で研究活動を行い、研究課題に対するアプローチの方法や実験結果に対する分析・解析法などを学ぶ。また、問題解決の意識・能力を高めるように指導する。							
授業の進め方と授業内容・方法	各指導教員において適切に研究テーマの選定（特例認定を受けている研究テーマ）を行い、研究活動に取り組む。また、発表会・アブストラクトにおいて指導教員と審査教員によって評価され、総合評価で60%以上の評価で達成とする。							
注意点	研究活動の遂行により、学外の学術講演会で発表できる研究成果を得ることが望ましく、また、発表することを期待する。研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	適切な研究テーマ（特例認定研究のテーマ）を選定し、研究を進める			研究の進捗・進展に合わせた「目標設定」、「目標到達」を考える		
		2週	以降、同じように進める			以降、同じように進める		
		3週						
		4週						
		5週						
		6週						
		7週						
	8週							
	2ndQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週						
		13週						
		14週						
		15週						
16週								
評価割合								
	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	30	30	0	10	100	
基礎的能力	0	5	10	10	0	0	25	
専門的能力	0	15	10	15	0	0	40	
分野横断的能力	0	5	0	0	0	0	5	
総合的学習経験と創造的思考力	0	5	10	5	0	0	20	

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	10	10
-----------------	---	---	---	---	---	----	----

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別研究 4			
科目基礎情報								
科目番号	0031		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 7				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2				
開設期	後期		週時間数	後期:21				
教科書/教材	各教員の指示による							
担当教員	徳田 誠, 葛目 幸一, 田房 友典, 榎田 温子, 前田 弘文, 益崎 智成							
目的・到達目標								
<p>本科における学習、及び専攻科で得た知識を基礎として、より高いレベルの専門分野の研究を行う。学術講演会（学外発表）・学内発表会などを経験することにより、プレゼンテーション能力を養う。また、論文作成により、専門的な問題に対して、適切に対応できる力を養う。特別研究への取組姿勢や研究の完成度に基づき、総合的により評価する。</p>								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1 専門分野の理論習得、周辺分野の知識習得、仕様の策定	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目2 実験やシミュレーションによるデータ収集、仕様に基づくものづくり	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目3 データの解析と考察、第三者の評価に基づく改良	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
評価項目4 学術論文形式での記録、プレゼンテーションによる説明	自ら行うことができる。		指導の下で行うことができる。		行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3								
教育方法等								
概要	研究を指導する教員の下で研究活動を行い、研究課題に対するアプローチの方法や実験結果に対する分析・解析法などを学ぶ。また、問題解決の意識・能力を高めるように指導する。							
授業の進め方と授業内容・方法	各指導教員において適切に研究テーマの選定（特例認定を受けている研究テーマ）を行い、研究活動に取り組む。また、発表会・アブストラクトにおいて指導教員と審査教員によって評価され、総合評価で60%以上の評価で達成とする。							
注意点	研究活動の遂行により、学外の学術講演会で発表できる研究成果を得ることが望ましく、また、発表することを期待する。研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	適切な研究テーマ（特例認定研究のテーマ）を選定し、研究を進める			研究の進捗・進展に合わせた「目標設定」、「目標到達」を考える		
		2週	以降、同じように進める			以降、同じように進める		
		3週						
		4週						
		5週						
		6週						
		7週						
	8週							
	4thQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週						
		13週						
		14週						
		15週						
16週								
評価割合								
	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	30	30	0	10	100	
基礎的能力	0	5	10	10	0	0	25	
専門的能力	0	15	10	15	0	0	40	
分野横断的能力	0	5	0	0	0	0	5	
総合的学習経験と創造的思考力	0	5	10	5	0	0	20	

態度・志向性 (人間力)	0	0	0	0	0	10	10
-----------------	---	---	---	---	---	----	----

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	教育技術演習
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	ガイダンス資料・報告書の様式等を配布する				
担当教員	前田 弘文,長井 弘志				
目的・到達目標					
本演習では、本科低学年の補習・学生実験・公開講座などのアシスタントを行い、指導的立場での経験を積む。これにより自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、さらに将来のリーダーとして発揮するための企画・実行できる力を養う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 教育技術	主体的に教育技術を高めることができる。	指導の下で、教育技術を高めることができる。	必要な教育技術を理解できない。		
評価項目2 コミュニケーション能力	主体的に指導の補助にあたることができる。	指導の下で、指導の補助にあたることができる。	指導の補助にあたることができない。		
評価項目3 計画性 (企画力・実行性)	主体的に計画 (企画力・実行性) 立案ができ、運営ができる。	指導の下で、計画性を有した運営のために貢献できる。	運営のために貢献できない。		
学科の到達目標項目との関係					
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	教育技術演習は、本科の低学年の補習・学生実験・公開講座などを通して、座学などで得られない経験を得ることを目的とする。専攻科1年、2年を通じて、合計30時間以上の教育・技術的な演習を行い、教育技術演習活動確認書・同報告書により単位認定が行われる。				
授業の進め方と授業内容・方法	履修者は、指導教員、または各教科担当教員の指導の下で、本科低学年の補習・学生実験・公開講座などを共同、もしくは役割の分担により演習を実施する。				
注意点	学期末ごとに、教育技術演習活動確認書と同報告書について、指導教員、または各教科担当教員に確認してもらうこと。1単位当たり、15時間の自学自習を必要とする。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	教育技術演習に関するガイダンスを行う (提出する書類、注意点など)	提出する書類、注意点などについて理解する	
		2週	以降は、適宜、指導教員・各教科担当教員の指示により実施する	以降、教育技術・コミュニケーション能力・計画性 (企画力・実行性) を意識して実施する	
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	教育技術演習に関するガイダンスを行う (提出する書類、注意点など)	提出する書類、注意点などについて理解する	
		2週	以降は、適宜、指導教員・各教科担当教員の指示により実施する	以降、教育技術・コミュニケーション能力・計画性 (企画力・実行性) を意識して実施する	
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	80	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	10	0	0	10
専門的能力	0	0	0	10	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	0	30	0	0	30
チームワーク力	0	0	0	20	0	0	20
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	20	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	ソフトウェア工学特論		
科目基礎情報							
科目番号	0033		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する。						
担当教員	高木 洋						
目的・到達目標							
プログラミングをおこなう際に考慮しなければならない問題点を理解し、その対策方法を身に付ける。オブジェクト指向について考え、その有用性を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
各種データ構造を知り、利用する局面を想定できる	目的に応じてデータ構造を選択できる		データ構造を理解できる		各種データ構造が理解できない		
プログラムの構造化による質の向上を理解する	構造化を行なえる		構造化を理解できる		構造化が理解できない		
オブジェクト指向プログラミングによる品質と生産性の向上を理解する	オブジェクト指向の利点を理解できる		オブジェクト指向を理解できる		オブジェクト指向が理解できない		
実際にオブジェクト指向によるプログラミング能力を身に付ける	継承やカプセル化などを積極的に利用		プログラムを作成できる		プログラムを作成できない		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 D1 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法	各単元の導入時に講義を行い、その後それぞれのテーマを与えて輪講形式で授業を進めていく。最後に実際にテーマを設けてプログラミングを行なう。						
注意点	1 単位あたり30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	アルゴリズムとデータ構造		種々のデータ構造を俯瞰し、データ設計の重要性を理解する		
		2週					
		3週					
		4週	構造化プログラミング		プログラムの構造化を考え、プログラムの質の向上に寄与することを理解する		
		5週					
		6週					
		7週	オブジェクト指向		オブジェクト指向の考え方を理解し、プログラムの品質や聖先生の向上につながることを理解する		
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週	プログラミング演習		テーマに沿って、クラスを設計し、そのクラスを実現するためのメンバを実装する		
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
知識の基本的な理解	0	30	0	0	0	20	50
思考・推論・創造への適応力	0	10	0	0	0	20	30
リーダーシップ・コミュニケーション能力	0	10	0	0	0	0	10
プレゼンテーション力	0	10	0	0	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	信号処理論		
科目基礎情報							
科目番号	0034		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜講義資料を配布する。(参考資料: 有木康雄『デジタル信号処理』オーム社, 2013)						
担当教員	峯脇 さやか						
目的・到達目標							
センサー信号の解析や画像, 音声信号などのデジタルデータの記憶や加工を行うための信号処理理論について講義する。授業では, 実際に信号処理プログラムを作成し, 実信号の処理を行う演習を通して, 理論に偏らないより実用的な技術を身につけることを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
信号処理概論を理解する。	信号処理概要が詳細に説明できる。	信号処理の概要が簡単に説明できる。	信号処理の概要が簡単に説明できない。				
信号処理の数学的取扱いができる。	Z変換, フーリエ変換等の計算ができる。	簡単なZ変換フーリエ変換等の計算ができる。	簡単なZ変換フーリエ変換の計算ができない。				
デジタルフィルタの設計と特性を評価できる。	デジタルフィルタの設計と評価ができる。	簡単なデジタルフィルタを設評価ができる。	簡単なデジタルフィルタの設計ができない。				
実信号の畳み込み演算処理ができる。	実信号を信号処理し考察できる。	実信号を信号処理できる。	実信号を信号処理できない。				
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	センサー信号の解析や画像, 音声信号などのデジタルデータの記憶や加工を行うための信号処理理論について講義する。授業では, 実際に信号処理プログラムを作成し, 実信号の処理を行う演習を通して, 理論に偏らないより実用的な技術を身につけることを目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	座学形式で実施する。						
注意点	講義30時間に対し, 自学自習60時間に相当する課題(レポート, 作品)を課し, 成績評価に加味する。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス, 離散時間信号処理とシステム	信号の離散時間表現に関する説明ができる。			
		2週					
		3週	信号の畳み込みとシステムの諸性質	畳み込み演算ができる。			
		4週					
		5週	離散時間信号のフーリエ解析	フーリエ解析の説明ができる。			
		6週					
		7週	標本化定理	標本化定理の説明ができる。			
	8週	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換の説明ができる。				
	4thQ	9週	z変換と伝達関数	z変換の説明ができる。			
		10週	システムの周波数特性	システムの周波数特性に関する説明ができる。			
		11週	デジタルフィルタ	デジタルフィルタの説明ができる。			
		12週					
		13週	適応信号処理	適応フィルタの説明ができる。			
		14週					
		15週	量子化と符号化	圧縮符号化の説明ができる。			
16週							
評価割合							
	試験	小テスト	レポート	成果物・実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	30	0	70	100
知識の基本的な理解	0	0	0	10	0	50	60
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	10	0	10	20
汎用的技能	0	0	0	10	0	10	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	コンピュータネットワーク			
科目基礎情報								
科目番号	0035		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	シスコネットワーキングアカデミー入門コース							
担当教員	徳田 誠							
目的・到達目標								
テクノロジーの進化により、我々の社会や生活、企業のビジネスモデルは日々変わっている。また、すべてが繋がる世界において、我々の活躍の場も日本のみならず世界に広がっている。本授業では、シスコネットワーキングアカデミーが提供する世界標準の教材を通して、キャリア・仕事に繋がる知識・スキルを学ぶ。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
IoT/DX	DXがもたらすメリットを十分に理解できる。		DXがもたらすメリットを理解できる。		DXがもたらすメリットを理解できない。			
サイバーセキュリティ	サイバーセキュリティとは何かが十分に理解できる。		サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		サイバーセキュリティとは何かが理解できない。			
学科の到達目標項目との関係								
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2								
教育方法等								
概要	シスコネットワーキングアカデミー入門コースを利用する。							
授業の進め方と授業内容・方法	オンライン教材を用いて学習し、単元ごとに行うテストの正答率に基づいて成績を評価する。							
注意点	講義 3 0 時間に対し、自己学習 6 0 時間が必要である。							
実務経験のある教員による授業科目								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス					
		2週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
		3週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
		4週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
		5週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
		6週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
		7週	IoT/DX入門			DXがもたらすメリットを理解できる。		
	2ndQ	8週	IoT/DX入門 (テスト1)			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		9週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		10週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		11週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		12週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		13週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		14週	サイバーセキュリティ入門			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
		15週	サイバーセキュリティ入門 (テスト2)			サイバーセキュリティとは何かが理解できる。		
16週	成績周知							
評価割合								
	テスト	小テスト	レポート	受講態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100	
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	0	0	0	0	
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0	

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	精密加工学		
科目基礎情報							
科目番号	0036	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	生産システム工学専攻	対象学年	専2				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	新版機械加工法名: 中山一雄, 上原邦雄 (朝倉書店)						
担当教員	大根田 浩久						
目的・到達目標							
(1) 精密加工学における工学知識を身につけること (2) 切削加工, 特殊加工技術を理解するエンジニアの育成を目指す (3) 最新の研究開発事例を自ら積極的に調査し, 発表する能力を備えること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1 ①精密切削加工法について理解している	理解できる	概ね理解している	理解していない				
評価項目2 ②精密鋳造法について理解している	理解できる	概ね理解している	理解していない				
評価項目3 ③特殊加工法について理解している	理解できる	概ね理解している	理解していない				
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	現代において、精密・超精密加工技術は重要な役割を担っており、他の周辺技術とともに徐々に進歩している。このようなことから、精密加工の基本的な知識は、必要不可欠である。本講義の精密加工学では、一般的な機械工作法よりも高い寸法精度・表面粗さを得るための加工法について、基礎的の加工技術や基礎的な知識の取得を目標として、説明する。						
授業の進め方と授業内容・方法	本講義は、精密切削加工法、精密鋳造法、特殊加工法について講義形式で行う。また、最新の研究事例について、学術論文を参照して、学習した内容を発表することにより、知識の定着化を図る。						
注意点	最新の研究事例について、レポートの提出などもあり、講義での内容だけでなく、広く調べて記述すること。1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	精密加工法とは	精密加工法について理解する			
		3週	精密切削加工法 切削加工	精密切削加工法の切削加工について理解する			
		4週	精密切削加工法 切削加工				
		5週	精密切削加工法 研削加工	精密切削加工法の研削加工について理解する			
		6週	精密切削加工法 研磨加工	精密切削加工法の研磨加工について理解する			
		7週	口頭発表・レポート				
		8週	精密鋳造法 ロストワックス鋳造法	精密鋳造法のロストワックス鋳造法について理解する			
	2ndQ	9週	精密鋳造法 ロストワックス鋳造法				
		10週	精密鋳造法 シェルモールド鋳造法	精密鋳造法のシェルモールド鋳造法について理解する			
		11週	精密鋳造法 シェルモールド鋳造法				
		12週	口頭発表・レポート				
		13週	特殊加工法 電気・化学加工	特殊加工法の電気・化学加工について理解する			
		14週	特殊加工法 レーザー加工	特殊加工法のレーザー加工について理解する			
		15週	口頭発表・レポート				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	45	55	0	0	0	100
基礎的能力	0	10	10	0	0	0	20

専門的能力	0	10	20	0	0	0	30
分野横断的能力	0	5	5	0	0	0	10
総合的学習経験 と創造的思考力	0	10	10	0	0	0	20
主体的・継続的 な学習意欲	0	10	10	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	環境マネジメントシステム		
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜プリント等配布						
担当教員	塚本 秀史						
目的・到達目標							
現在は環境問題の複雑化・重大化に伴って、新しい環境はどうあるべきかの問題が問われるようになり、ものづくりの過程においては環境保全に関し細心の配慮がなされなければならない。そのため技術者ひとりひとりが、環境問題の基本的な知識とそのマネジメント実施の視点をもてるようになることを目標とする							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
技術者として、環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題等の地球的課題とその背景について理解でき、配慮ができる		環境保全に関して理解し、その配慮ができる。	環境保全に関して原因と結果の関連過程を理解していない。	環境保全に関して原因と結果の関連過程を理解していない。			
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法		講義形式で進める。					
注意点		1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。					
実務経験のある教員による授業科目							
この科目は、企業で環境アセスメント業務（環境データの処理等）を担当していた教員が、その経験を活かし、環境に関する基本的な内容を講義形式で授業を行う。							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	環境の現状	現在の環境問題を説明できる			
		3週	環境の現状	現在の環境問題を説明できる			
		4週	環境にかかわる条約・法律	関連法を理解し説明できる。			
		5週	環境にかかわる条約・法律	関連法を理解し説明できる。			
		6週	環境問題の歴史的経過	歴史的経過を理解している。			
		7週	環境問題の歴史的経過	歴史的経過を理解している。			
		8週	エネルギーの視点からの環境問題	エネルギー利用とその影響を説明できる。			
	4thQ	9週	エネルギーの視点からの環境問題	エネルギー利用とその影響を説明できる。			
		10週	食料の視点からの環境問題	食糧生産とその配分に関して説明できる。			
		11週	食料の視点からの環境問題	食糧生産とその配分に関して説明できる。			
		12週	省資源社会と循環型社会	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる			
		13週	省資源社会と循環型社会	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる			
		14週	環境リスク	環境リスクの考え方を理解している。			
		15週	環境リスク	環境リスクの考え方を理解している。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
コミュニケーション	0	0	0	10	0	0	10

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	弾塑性学		
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	【教科書】「弾塑性力学の基礎」吉田総仁 著・共立出版 【参考書】「弾性力学」村上敬宜 著・養賢堂、「塑性学」工藤英明 著・森北出版						
担当教員	政家 利彦						
目的・到達目標							
弾塑性体の力学的挙動（応力とひずみの関係）を記述する数理モデルについて連続体力学の立場から解説する。また、弾塑性体に外力（あるいは変位）が作用したときに物体内に生じる応力（およびひずみ）分布を求めるための支配方程式とその解析手法について解説し、弾塑性力学の基礎的な知識を修得させる。 筆記試験の結果を60%程度、課題レポートを20%程度、プレゼンテーションを20%程度とし総合評価を行う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
弾塑性理論	弾塑性理論を説明できる		弾塑性理論を理解できる		弾塑性理論を理解できない		
弾塑性モデル	弾塑性モデルを説明できる		弾塑性モデルを理解できる		弾塑性モデルを理解できない		
弾塑性問題	弾塑性問題を解説できる		弾塑性問題を理解できる		弾塑性問題を理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 専門 A2 教養 D1 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	標準的な弾性力学、数値弾性力学の入門、標準的な塑性力学、材料力学の延長としての塑性力学入門、数値弾性力学の入門、塑性加工学の入門について授業を進める。また、輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う。講義1時間につき2時間の予習・復習等を行うこと。到達目標に達しない場合の学生への対応は適宜、補講等により対応する。						
授業の進め方と授業内容・方法	講義・質問形式の授業を行うほか、輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う。						
注意点							
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	序論：数理塑性力学および材料学を基礎とする結晶塑性学の役割、これらの相互の関連、塑性力学の応用分野（強度計算、塑性加工解析）。		弾塑性の役割、応用分野を理解する		
		2週	"		"		
		3週	"		"		
		4週	"		"		
		5週	"		"		
		6週	"		"		
		7週	単軸応力状態での応力・ひずみ関係とそのモデル化：単軸引張り・圧縮あるいは単純せん断における応力-ひずみ関係と数理モデル。		応力とひずみ関係を理解する		
		8週	"		"		
	4thQ	9週	"		"		
		10週	"		"		
		11週	"		"		
		12週	"		"		
		13週	単純な応力状態での弾塑性問題：はりの曲げ、丸棒のねじりなどを例にとり、単純な応力状態における弾塑性応力・ひずみ解析（材料力学的手法による）		弾塑性応力・ひずみ解析を理解する		
		14週	"		"		
		15週	"		"		
		16週	"		"		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	10	0	10	100
基礎的能力	40	20	0	10	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	短期インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	0039		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内の指定はない。インターンシップ実習先にて指定される					
担当教員	前田 弘文,長井 弘志					
目的・到達目標						
企業など学外での実習体験を通じて、本学で学んだ知識・基礎的技術を認識し、さらに視野を広げ、より実践的な知識や技術を身につける。また、社会人としての自覚や職業観を養うことを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 志望動機	主体的に志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明かにできない。			
評価項目2 企業での実践的な知識や技術	主体的に実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べることができない。			
評価項目3 企業での実習	主体的に実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
専門 A1 専門 A2 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2						
教育方法等						
概要	短期インターンシップを通じて、企業側の視点から、より実践的な知識や技術を身につける。さらに業務への責任感・コミュニケーション能力の向上・チームワークの重要性などの基本を身につけ、技術者として働くことの基本を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	短期インターンシップ実習を希望する企業・大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明確にし、インターンシップ実習の準備を行う。企業側の受入れ許諾後、企業内の工場・研究所内で実習を行う。評価方法は、専攻科在籍中に実施し、その実習証明書およびインターンシップ報告書が提出されたものについて、前記の証明書・報告書、および学外実習先担当者の評価を考慮した総合評価とする。単位認定は、専攻科2年の後期に行う。					
注意点	実習企業先は、希望通りにならない場合もある。しかし、真摯な態度で実習に取り組み、実習先に迷惑をかけないこと。実習先では、社会人と同等であることを自覚し、礼儀と良識を持つこと。また、実習先の担当者の指示に従い、事故などの防止に最善の注意を払い、行動すること。実習中に集合時間など指定された場合、厳守すること。単位取得には、必要書類の作成時間、実習時間、インターンシップ報告書作成時間を含めて、45時間以上、必要である。					
実務経験のある教員による授業科目						
この科目は、企業の技術者が直接担当する。						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明らかにして、志望理由書を明確にする(情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける)。	志望動機を明かにできる。 企業理解のために情報収集ができる。		
		2週	2. 事前のガイダンスを受け、必要書類を作成する。	書類記載に間違いがないようにする。		
		3週	3. 実際に会社の工場、研究所の実験室で学外実習を行う。体験する実習内容は、生産現場および事業所での業務、研究室での業務などである(実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う)。	主体的に実習を行うようにする。		
		4週	4. 学外実習終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する(情報処理により報告書を作成する)。	インターンシップ報告書を作成する。実習内容を的確に伝えることができるようにする。		
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
		2ndQ	9週			
			10週			
			11週			
			12週			
			13週			
			14週			
			15週			
			16週			
後期	3rdQ	1週	1. 実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明らかにして、志望理由書を明確にする(情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける)。	志望動機を明かにできる。 企業理解のために情報収集ができる。		
		2週	2. 事前のガイダンスを受け、必要書類を作成する。	書類記載に間違いがないようにする。		

		3週	3. 実際に会社の工場、研究所の実験室で学外実習を行う。体験する実習内容は、生産現場および事業所での業務、研究室での業務などである（実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う）。	主体的に実習を行うようにする。	
		4週	4. 学外実習終了後、インターンシップ報告書を作成し提出する（情報処理により報告書を作成する）。	インターンシップ報告書を作成する。実習内容を的確に伝えることができるようにする。	
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

評価割合

	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	80	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	10	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	0	30	0	0	30
チームワーク力	0	0	0	30	0	0	30
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	20	20

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	0040		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内の指定はない。インターンシップ実習先にて指定される					
担当教員	前田 弘文,長井 弘志					
目的・到達目標						
企業など学外での実習体験を通じて、本学で学んだ知識・基礎的技術を認識し、さらに視野を広げ、より実践的な知識や技術を身につける。また、社会人としての自覚や職業観を養うことを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 志望動機	主体的に志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明かにできる。	指導の下で、志望動機を明らかにできない。			
評価項目2 企業での実践的な知識や技術	主体的に実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べる。	指導の下で、実践的な知識や技術を学べることができない。			
評価項目3 企業での実習	主体的に実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができる。	指導の下で、実習を行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
専門 A1 専門 A2 教養 B1 教養 B2 教養 C1 教養 C2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2 専門 E3						
教育方法等						
概要	長期インターンシップを通じて、企業側の視点から、より実践的な知識や技術を身につける。さらに業務への責任感・コミュニケーション能力の向上・チームワークの重要性などの基本を身につけ、技術者として働くことの基本を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	長期インターンシップ実習を希望する企業・大学等の研究所に関して事前に調べ、志望理由を明確にし、インターンシップ実習の準備を行う。企業側の受入れ承諾後、企業内の工場・研究所内で実習を行う。評価方法は、専攻科在籍中に実施し、その実習証明書およびインターンシップ報告書が提出されたものについて、上記証明書・報告書、および学外実習先担当者の評価を考慮した総合評価とする。単位認定は、専攻科2年の後期に行う。					
注意点	実習企業先は、希望通りにならない場合もある。しかし、真摯な態度で実習に取り組み、実習先に迷惑をかけないこと。実習先では、社会人と同等であることを自覚し、礼儀と良識を持つこと。また、実習先の担当者の指示に従い、事故などの防止に最善の注意を払い、行動すること。実習中に集合時間など指定された場合、厳守すること。単位取得には、必要書類の作成時間、実習時間、インターンシップ報告書作成時間を含めて、135時間以上、必要である。					
実務経験のある教員による授業科目						
この科目は、企業の技術者が直接担当する。						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	1. 下記①～③実習を選択し、実習を希望するプログラム、会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行い、志望理由を明らかにして、必要書類を作成する。			
		2週	2. 実習の実施 ①高専機構が実施する「海外インターンシッププログラム」に基づき、派遣される学生を対象としたもの（3週間以上）。プログラムの目的に賛同する日本国内の企業・団体（以下「協力企業」という。）と連携し、協力企業の海外事業所等で受入れ企業のプログラム内容で実施。	① ・企業における国際化の実態を理解し、グローバルな視野を持てる。 ・学校の枠を超えた、学生間の交流活動を通して、協働および相互理解を実践できる。 ・実務上の課題解決を通して、専門的かつ学際的な知識を修得できる。 ・実務を通じて外国語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 ・日本とは異なる文化や習慣を理解できる。 ・職場におけるマナー・ルールを学び、それらを遵守する態度を身につける。		
		3週	②専攻科・商船学科国際インターンシップ（アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島・ハワイ島）に参加する学生を対象としたもの（2週間～20日間程度）。POLYNESIAの伝統的な海洋文化に触れ、古来の伝統的技術と最新の技術の双方を学ぶ事により、“つくる力”に必要なバランス感覚を涵養する。	② ・伝統的な航法並びに、外洋航海型カヌーの建造、伝統航海カヌーの航海訓練できる。 ・KAUAI島の自然環境に触れることにより、環境問題、環境保全に対する意識を向上できる。 ・異文化間のコミュニケーション能力を涵養できる。		
		4週	③会社の工場、研究所の実験室で実習を長期に行う学生を対象としたもの（3週間以上）。実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行ったうえで、受入れ先のプログラム内容で実施。 3. インターンシップ報告書を作成することで情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける。	③ ・生産現場および事業所での業務、研究室での業務など実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う。 ・文書作成力を身につけることができる。		
	5週					
	6週					
	7週					
	8週					
	2ndQ	9週				
		10週				

		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	1. 下記①～③実習を選択し、実習を希望するプログラム、会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行い、志望理由を明らかにして、必要書類を作成する。				
		2週	2. 実習の実施 ①高専機構が実施する「海外インターンシッププログラム」に基づき、派遣される学生を対象としたもの（3週間以上）。プログラムの目的に賛同する日本国内の企業・団体（以下「協力企業」という。）と連携し、協力企業の海外事業所等で受入れ企業のプログラム内容で実施。	①	・企業における国際化の実態を理解し、グローバルな視野を持てる。		
		3週			・学校の枠を超えた、学生間の交流活動を通して、協働および相互理解を実践できる。		
		4週			・実務上の課題解決を通して、専門的かつ学際的な知識を修得できる。		
		5週			・実務を通じて外国語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。		
		6週			・日本とは異なる文化や習慣を理解できる。		
		7週			・職場におけるマナー・ルールを学び、それらを遵守する態度を身につける。		
		8週	②専攻科・商船学科国際インターンシップ（アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島・ハワイ島）に参加する学生を対象としたもの（2週間～20日間程度）。POLYNESIAの伝統的な海洋文化に触れ、古来の伝統的技術と最新の技術の双方を学ぶ事により、“つくる力”に必要なバランス感覚を涵養する。	②	・伝統的な航法並びに、外洋航海型カヌーの建造、伝統航海カヌーの航海訓練できる。		
	4thQ	9週			・KAUAI島の自然環境に触れることにより、環境問題、環境保全に対する意識を向上できる。		
		10週			・異文化間のコミュニケーション能力を涵養できる。		
		11週	③会社の工場、研究所の実験室で実習を長期に行う学生を対象としたもの（3週間以上）。実習を希望する会社、大学等の研究所に関して事前に情報収集を行ったうえで、受入れ先のプログラム内容で実施。 3. インターンシップ報告書を作成することで情報処理能力および知識の整理と文章表現力を身につける。	③	・生産現場および事業所での業務、研究室での業務など実社会で必要とされる知識や技術の方向性を把握し、職業観を養う。文書作成力を身につけることができる。		
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					

評価割合

	試験	発表	レポート	実技・成果物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	80	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	10	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10
リーダーシップ・コミュニケーション力	0	0	0	30	0	0	30
チームワーク力	0	0	0	30	0	0	30
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	20	20